

ANNUAL REPORT

2019 – 2020

No. 43



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策のおよび計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2020 年 4 月現在の本域所属の教員は、教授 19 名、准教授 20 名、講師 2 名、助教 10 名の合計 51 名、連携大学院教員 8 名（教授 6 名、准教授 2 名）を加えると 59 名である。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の 2019 年度中の研究・教育活動は、以下のよう

(1) 研究活動

本域の研究活動は、2019 年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入にも努め、外部研究資金を着実に獲得している。2019 年度の科学研究費の採択本数は 9 件（基盤(B)6 件、基盤(C)2 件、若手 1 件）であり、継続 35 件と合わせると 44 件となる。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2020 年 7 月現在、リサーチユニット 9 件、リサーチグループ 7 件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして、本学大学院全体の改組に伴い 2020 年度より新設された理工情報生命学術院・システム情報工学研究群の中に、社会工学学位プログラム（博士前期・後期課程）、サービス工学学位プログラム（博士前期課程）の二つの独立した学位プログラムが発足し、大学院教育・研究指導を進めることになった。ただし、既に 2014 年度より、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻を改組し、社会工学専攻が発足しており、その中で上記の二つの学位プログラムは活動を開始していた。また、同じくシステム情報工学研究群の中のリスク・レジリエンス工学学位プログラム（博士前期・後期課程）、理工情報生命学術院・生命地球科学研究群内の環境科学学位プログラム（博士前期課程）・環境学学位プログラム（博士後期課程）においても教育研究活動を行っている。さらに本域では、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類の学類教育も担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。社会工学学位プログラムでは前々身の組織時代の 2007 年度より、博士後期課程で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」を通じて社会人を継続的に受け入れている。2008 年度からは院生活動支援プロジェクトを実施し、学位プログラム独自の予算で学生の国内外の研究発表を経済的に支援している。さらに 2017 年には社会工学学位プログラム内に社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」が開設され、サービス工学学位プログラムとともに、本学に 2017 年 4 月に開設された未来社会工学開発研究センターと人工知能科学研究センターの活動に貢献する体制が整えられている。

かねてより社会工学・サービス工学学位プログラムならびに社会工学類では、教育の高度化を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。これらの教育で

は卒業生による協力も大きい。社会工学同窓会、社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に、2007 年から社会工学類の優秀な卒業生 3 名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は、清華大学、香港理工大学（中国）、漢陽大学校、弘益大学校、韓国国土研究院、ソウル市立大学校（韓国）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）、交通通信大学（ベトナム）、ルール大学ボーフム校（ドイツ）、フリンダース大学（オーストラリア）、パリ・ラ・ヴィレット大学、ポール・ヴァレリーモンペリエ第3大学（フランス）、アル・アハワイン大学（モロッコ）、ヨルダン科学技術大学（ヨルダン）等、多岐にわたっている。特に2016年9月にベトナムの首都ハノイにおいて開学した「日越大学」、ならびに筑波大学における世界展開力強化事業では、本域の教員が多数協力を行っている。

また実学も重視しており、国、自治体、企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や、茨城県内5市（北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウム開催、自治体からの受託研究の実施、国・自治体の各種委員への就任など社会連携活動へ大いに貢献した。上述のように2017年4月からは社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」も開設され、産官学連携活動もきわめて活発に行われている。

(4) 組織

本域教員の流動性は高く、それに伴い審査付学术论文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもち、工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで、若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。特に本学に2017年4月から開設された未来社会工学開発研究センターならびに人工知能科学研究センターとの連携では、本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに、本域の研究・教育両面での新たな飛躍が期待されている。組織力を生かした運営を通じ、社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに、本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2020年8月3日

社会工学域長、社会システム・マネジメント専攻長、社会工学専攻長、社会工学学位プログラム・リーダー
藤川 昌樹

大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2020/6/30 現在)

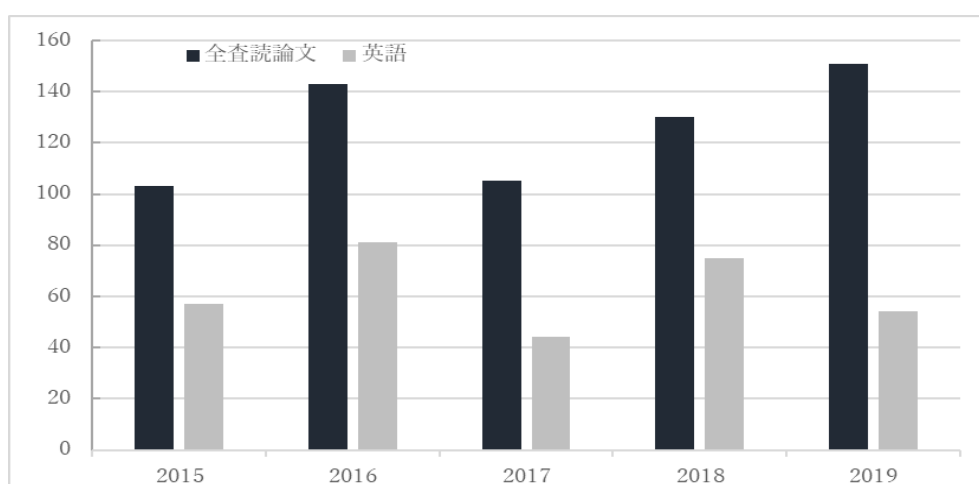
課題名(領域)	概要	代表者
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す.	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
空間情報科学(複合系)	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
都市の OR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三

価値創造(複合系)	ビッグデータが注目される中、複数の情報を組みあわせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。	繁野 麻衣子
空間情報の社会的活用(複合系)	地理情報はビッグデータの時代を迎えて、IoT 化の進展や ICT 技術により大量化・高度化しているが、近年重要性を増している情報技術の社会実装と政策展開の課題のなかで、有効かつ的確に活用する可能性が広がっているにも関わらず、いまだその活用は不十分である。本リサーチユニットは、未来社会の空間設計に向けて、地理情報ビッグデータの集約と活用方法の開発、そして、数理モデリング技法による空間意思決定方法への応用の研究を推進することを目的とする。この活動により、犯罪・災害などのリスクに対する安全研究、安全・効率的で環境負荷の少ない交通体系の研究、老朽化する都市基盤施設の維持更新や集約型のコンパクト・アンド・ネットワーク型の都市計画の研究等において、これまでの方法では見えてこなかった空間データを応用した意思決定の社会実装方法や、即効性の高い政策展開を支える社会的な仕組みを提示することができるようになることを目指す。	鈴木 勉

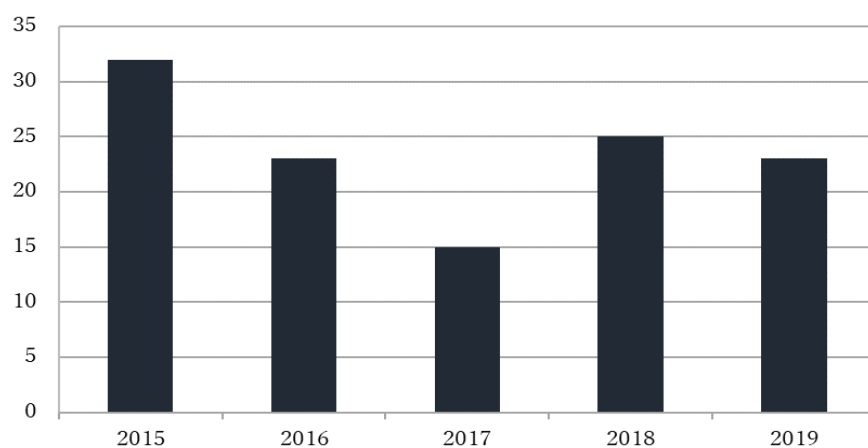
筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員 (2020/6/30 現在)

課題名	概要	代表者
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループでは、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用	国内外においてビッグデータの活用が進んでいる状況を踏まえながら、地域、環境、教育、医療、国土、交通、労働、産業などの政策立案に資する実証研究および、そのための統計手法の開発を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPS タクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩
地理情報の解析と視覚化	数理科学，都市計画，地理情報システムの専門家が計算幾何学，まちづくり，データマイニング，最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し，研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明
社会メカニズム工学	複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。 ・キーワード: マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス	秋山 英三
レジリエント社会実現のための都市・地域リスクマネジメント学の展開	現実には都市・地域の現場で問題とされるリスクに対し適切なマネジメント手法を探索し、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じた問題解決により社会貢献を果たすとともに、都市・地域に潜在し将来的に深刻化するおそれのあるリスクの発見と有効な対処方法という観点から研究を行う。	梅本 通孝

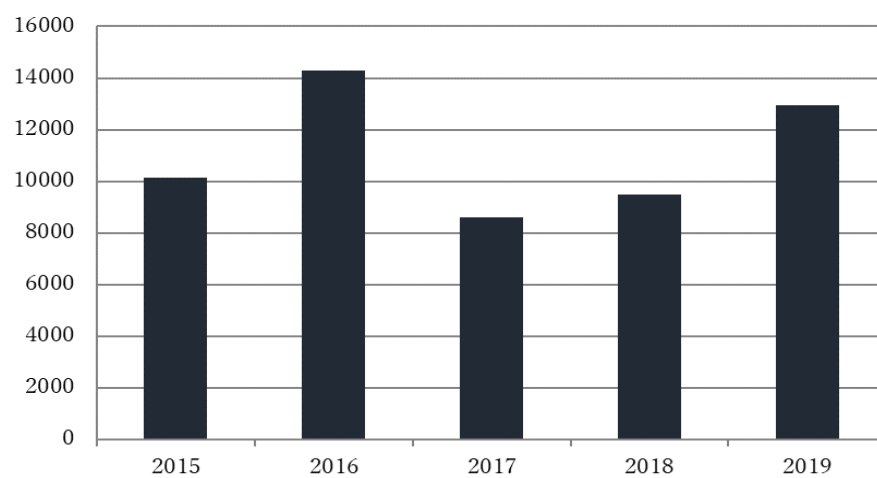
都市・地域の経営とデザイン	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。	有田 智一
---------------	---	-------



教員過去 5 年間の論文数



教員過去 5 年間の著書数



科研費合計額（単位：万円、直接＋間接経費、代表者が社工教員）

II. 教員一覽

2020/4/1 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力的行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
糸井川 栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
イリチュ(佐藤) 美佳	統計科学、多次元データ解析	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
大澤 義明	都市計画、地域科学	MaaS と都市計画、公共施設マネジメント、災害復興、住民投票の意義、税競争と調和、夜景、世界の研究学園都市、立地論
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地科学、地理情報科学	計画数理、立地分析、施設配置計画、都市形態、公共サービス、公共交通計画、都市リスク管理、地理情報の応用
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスクコミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション、新技術の社会的受容
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究

繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	デジタル指紋符号・グループ検査方式・多元接続通信符号・分散ストレージシステム符号・プライバシー保護方式の構成及びアルゴリズムの開発
村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
渡辺 俊	建築情報学、都市情報学、空間情報学、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造

奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
作道 真理	応用計量経済学	応用計量経済学
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
Stephen John, Turnbull,	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
高野 祐一	数理最適化、金融工学、機械学習	ポートフォリオ選択、統計的モデル選択、商品推薦アルゴリズム、数理最適化技法（数理モデル・アルゴリズム）の開発と応用
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、建築規制・まちづくり法制、地区まちづくり、住環境整備	都市計画制度の活用効果と課題、地域独自のルール・仕組みづくり、地域住民等の発意を活かした地区まちづくり、既成・郊外住宅地や住宅団地の再生、地域資源を活用したまちづくり
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市計画史
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究
和田 健太郎	交通工学、土木計画学	交通ネットワーク均衡分析、交通流解析、交通制御

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム、技術経営と地域活性化（経営管理 DMAIC-PDCA サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）
近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次 POS データの価格反応モデル分析

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
五十嵐 岳	数理統計学	ノンパラメトリック推定
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
金澤 輝代士	金融データ解析、経済物理、統計物理、確率過程	
木下 陽平	測地学、気象学、リモートセンシング	衛星測地技術を用いた研究、合成開口レーダーの気象学的応用、防災・減災のための衛星データの利活用
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル
佐野 幸恵	社会経済物理、ネットワーク科学、ウェブサイエンス、計算社会科学	社会現象における普遍則の抽出、ソーシャルメディア分析、大規模データ解析
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏 名	秋山英三	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

2. 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論

大学院前期課程

社会シミュレーション

3. 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学学位 P（前期）6人／社会工学学位 P（後期）2人

4. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究（C） 市場参加者の異質性とその認識が資産価格変動に与える影響（代表）
- 基盤研究（B） 情報コストゼロ社会における過剰懲罰とリスク軽減のための社会制度設計（代表者：鳥海不二夫）
- 基盤研究（B） 肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築（代表者：栗野盛光）
- 基盤研究（C） 地域社会の危機管理能力強化のための公共政策：公共財理論とネットワーク科学の融合（代表者：藤本茂）
- 挑戦的研究(開拓) 国家の規模とガバナンスの学際的分析（代表者：田所昌幸）
- 国際共同研究強化(B) 情報の非対称性と多様な期待形成がもたらす金融市場への影響とその安定化政策について（代表者：船木由喜彦）

◆ 著書・論文等：

- ・ 河又裕士, 秋山英三, ガソリン小売価格の推移に見られるエッジワース・サイクルの周期の異質性, 応用地域学研究, 7 pages, forthcoming (2020). 査読有.
- ・ 矢澤直人, 秋山英三. (2019). ROSCA 型相互扶助ゲームにおける協力進化を促すメカニズムの提案. 情報処理学会論文誌, 60(10), 1719-1727. 査読有.

◆ 学会発表等：

Akiyama, E. (with M. Mizuno), "Conflict aversion and social dilemma," Workshop on "The application and development of experimental economics," Beifang University of

Nationalities, China, September 23, 2019.

Akiyama, E. (with M. Mizuno),

"The effect of "dilemma" in the prisoner's dilemma game on the mental conflict, and conflict averting behavior," International Conference on Social Dilemmas, Sedona, USA, June 5, 2019.

◆ その他：

5. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・全学 副学長補佐
- ・全学 教育企画室 室員
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 アドミッション・タスクフォース リーダー
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 SF 教育・タスクフォース リーダー
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 振り分け・タスクフォース
- ・全学 学術情報メディアセンター運営委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・学類 運営委員会委員
- ・専攻 運営委員会委員

6. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ネットワークが創発する知能研究会 2018 プログラム委員
- JAWS2018 (Joint Agent Workshops and Symposium 2018) プログラム委員

氏 名	有田 智一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域政策，都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆担当授業科目：

社会工学類：都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、都市・地域・環境を巡るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦Ⅰ（世話人教員）

◆指導学生数：

社会工学類 4 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（修士） 7 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（博士） 1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・鹿島学術振興財団「公共貢献型都市開発の課題と今後の展開可能性—日本・アメリカ・イギリスの比較研究」（研究代表者）
- ・奨学寄附金（日本建築住宅センター）「都市開発・都市再生関連政策の実態と今後の展開に関する研究」（研究代表者）
- ・基盤研究 B「豪雨災害から避難弱者を守る共助的な避難行動計画づくりシステムに関する学際的研究」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

鈴木賢人、有田智一「地区スケールの賑わい空間構造の定量分析に関する研究 歩行空間と周辺土地利用に着目して」日本建築学会情報システム技術（2019），
pp.53-54., 2019-07-20

有田智一「論説：市街地再開発事業によるインフラ整備」『都市再開発法制定 50 周年記念

誌：時代を画した再開発事業』 pp. 150～157.

公益社団法人 全国市街地再開発協会/一般社団法人 再開発コーディネーター協会編集

有田智一、加藤仁美「第2章 市街地建築物法・建築基準法と建築学会 2-1 建築学会が果たしてきた役割」『日本近代建築法制の100年：市街地建築物法から建築基準法まで』日本近代建築法制100年史編集委員会、一般社団法人日本建築センター

有田智一「世界からみた銀座のルールとガバナンス（特集 銀座と都市計画）」都市計画 68(4), pp. 42-45. 2019-07-15、日本都市計画学会

◆ 学会発表等：

◆ その他：

特集編集企画担当

「特集＝ 35 建築法制 100 周年〔歴史編〕現実と理想のあいだで」

「特集＝36 建築法制 100 周年〔展望編〕これからの都市と建築の規範を考える」

日本建築学会「建築雑誌」2019-6月号 JUNE

全国建築審査会会長会議 招待 特別講演

「近代建築法制の100年と今後の建築審査会の役割と意義」

2019年10月31日 島根県松江市 くにびきメッセ

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系戦略室員

全学つくば・地域連携推進室室員

地球規模課題学位プログラム運営委員会委員

日越大学公共政策プログラム担当

筑波大学によるつくば市消防署跡地利用計画事業審査委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類入試実施委員会委員

建築士受験資格運営委員会委員長

授業評価・FD委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

東京都住宅政策審議会委員

東京都住宅政策審議会企画部会部会長代理

東京都建築審査会委員

東京都江戸川区都市計画審議会委員

東京都練馬区都市計画審議会委員

東京都中野区住宅政策審議会会長

川崎市建築等紛争調停委員会委員

埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員

千葉県松戸市建築審査会委員

守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長

守谷市空家等対策協議会座長

守谷市立学校給食センター整備事業プロポーザル審査委員会委員長

土浦市行財政改革推進委員会委員長

土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長

土浦市空き家等審議会委員長

土浦市建築審査会委員

古河市空き家等審議会委員長

桜川市都市計画マスタープラン策定委員会委員

桜川市市有財産跡地等利活用審議会会長

阿見町都市計画審議会委員

日本建築学会建築法制委員会委員

日本建築学会建築法制委員会近代建築法制100周年記念活動支援小委員会主査

日本建築学会建築法制委員会人口減少時代のゾーニング検討小委員会委員

日本都市計画学会監事

不動産学会論文著作賞選考委員会委員

都市住宅学会関東支部常議員

都市住宅学会学術委員会委員

都市住宅学会学会賞委員会委員

応用地域学会学術委員会委員

財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

「これからの都市開発・再開発についての研究会：大都市部会」委員（全国市街地再開発協会、株式会社日本建築住宅センター）

Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),”

Editorial Board(Taylor & Francis)

氏 名	糸井川 栄一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	なし
研究分野	都市災害リスク管理、地区安全計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分3／都市計画実習／都市防災計画

大学院前期課程 都市リスクマネジメント論／レジリエント都市計画演習／リスク・レジリエンス工学概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻前期課程 9人／リスク工学専攻後期課程 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・市街地火災時の安全な避難を目指した住民の初期消火活動効果とその限界に関する研究
- ・地震火災時の不完全な覚知火災情報に基づくリアルタイム避難誘導支援に関する研究

◆ 著書・論文等：

- (1)Yuta Suzuki and Eiichi Itoigawa, Effectiveness of Safety Routing Method in Real-Time Evacuation Guidance based on Incomplete Information under Post-Earthquake Fires, Fifth International Conference on Urban Disaster Reduction - Decades Review on Recovery: Learning from Best Practices, September 16 – September 18, 2019, Taipei, Taiwan, USB-Memory
- (2)樋本圭佑, 糸井川栄一, 岩見達也, 相対リスクに基づく建築物の延焼防止性能検証, 日本建築学会環境系論文集, 第84巻, 第764号, 2019年10月, pp.883-891.
- (3)鈴木雄太, 糸井川栄一, 地震火災時の不完全情報下におけるリアルタイム避難経路の最適化, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.35, 2019.11, pp.153-162.
- (4)清水純平, 糸井川栄一, 地震火災時の不完全情報下における不確実な避難誘導情報の活用意図に関する研究, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.35, 2019.11, pp.163-171.
- (5)齋藤貴史, 糸井川栄一, 地震災害時の自治会活動パフォーマンス評価ー地区防災計画を策定した自治会を対象としてー, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.35, 2019.11, pp.37-47.

(6)井本隆志, 糸井川栄一, 大地震時のマンション防災における行政支援の課題の調査－住民の安全な在宅避難に向けて－, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.35, 2019.11, pp.97-105.

(7)内田航, 糸井川栄一, 震災時における就業者の通勤行動と自転車利用に関する研究－2018 年大阪府北部地震を対象として－, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.35, 2019.11, pp.135-141.

◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績

(1)鈴木 雄太, 糸井川 栄一, 地震火災時のリアルタイム避難誘導支援を目的とした避難経路可視化システムの開発, 地域安全学会梗概集, No.44, 2019.5, pp.51-54

(2)樋本圭佑, 糸井川栄一, 岩見達也, 村岡宏, 木本勢也, 泉潤一, 茶谷友紀子, 蛇石貴宏, 中村正寿, 加來千紘, 安井昇, 高橋済, 松山賢, 防火地域・準防火地域に建つ建築物の延焼防止性能検証に関する研究 その 1 相対延焼リスクに基づく検証手続きの整備, 日本建築学会学術講演梗概集 (防火), 2019.8.

(3)茶谷友紀子, 村岡宏, 中村正寿, 樋本圭佑, 木本勢也, 蛇石貴宏, 泉潤一, 安井昇, 高橋済, 竹谷修一, 松山賢, 糸井川栄一, 防火地域・準防火地域に建つ建築物の延焼防止性能検証に関する研究 その 2 事務所・物販店舗を対象としたケーススタディ, 日本建築学会学術講演梗概集 (防火), 2019.8.

(4)木本勢也, 村岡宏, 中村正寿, 樋本圭佑, 泉潤一, 蛇石貴宏, 茶谷友紀子, 加來千紘, 安井昇, 高橋済, 竹谷修一, 松山賢, 糸井川栄一, 防火地域・準防火地域に建つ建築物の延焼防止性能検証に関する研究 その 3 共同住宅・学校を対象としたケーススタディ, 日本建築学会学術講演梗概集 (防火), 2019.8.

(5) Yuta Suzuki, Eiichi Itoigawa, Risk Analyses of Evacuation guidance of Real-Time Route Updating based on Incomplete Information under Post-Earthquake Fires, IWUOR 2019, 2019.7.19, Nanzan University

◆ その他：
なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

本部全学リスク管理室員／システム情報系コンプライアンス推進委員会委員／システム情報系施設・安全衛生管理委員会委員長

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻 GP達成度評価実施委員会委員／GPアクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員長／教育企画委員会委員長／施設委員会委員長／カリキュラム委員会委員／将来戦略 WG コアメンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- (1)地域安全学会 理事／学術委員会委員／査読
- (2)日本建築学会 都市防火小委員会委員／査読
- (3)日本都市計画学会 査読
- (4)国土交通省 「建築防火基準委員会」委員(2011～)
- (5)独立行政法人建築研究所 客員研究員 (2008～)
- (6)東京都都市整備局 「東京都地域危険度測定調査部会」専門委員／「避難場所調査検討部会」専門委員
- (6)東京消防庁 「第24期火災予防審議会」委員・地震防災部会長
- (7)神栖市 「神栖市総合計画審議会」委員長 (2017～)
- (8)鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」委員長(2012～)
- (9) (公社) ロングライフビル推進協会 「市街地火災 WG」委員／「主要構造部・避難WG」委員
- (10)応用地質(株) 「損害保険料率算出機構委託「地震時の出火率予測手法高度化に関する研究委員会」主査 (2019～) ／「東京消防庁委託「地震時における出火要因に関する調査研究委員会」主査 (2019～)
- (11)(株)イオタ 東京都受託事業「東京防災学習セミナー」講座「木密地域の防災対策」講師 (2017～)

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計 I/社工専門英語（分担） / 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学基礎（分担）/リスク工学グループ演習（分担）/社会システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/特定課題研究(分担)

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人/リスク工学専攻博士前期課程 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

◆ 著書・論文等：

- (1) M. Sato-Ilic, Probabilistic Metric Based Multidimensional Scaling, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 168, pp. 65-72, 2020 (Best Paper Award 受賞)
- (2) M. Sato-Ilic, Quantification and Visualization for Difference of Fuzzy Clustering Results, The 2019 IEEE International Conference on Fuzzy Systems, pp.1-6, 2019
- (3) 佐藤美佳, ファジィクラスタリングとファジィクラスタリングモデル, 知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌）, Vol. 31, No. 3, pp.75-81, 2019
- (4) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Models and Their Related Concepts, Fuzzy Approaches for Soft Computing and Approximate Reasoning: Theories and Applications, Springer, Switzerland, M.-J. Lesot, C. Marsala (eds.),2020 (in press)
- (5) Y. Toko, S. Iijima, M. Sato-Ilic, Generalization for Improvement of the Reliability Score for Autocoding, Romanian Statistical Review, 3, pp.47-59, 2019
- (6) Y. Toko, K. Wada, S. Yui, M. Sato-Ilic, A Supervised Multiclass Classifier as

an Autocoding System for the Family Income and Expenditure Survey, Advanced Studies in Classification and Data Science, Studies in Classification, Data Analysis, and Knowledge Organization Springer, Singapore, T. Imaizumi et al. (eds.), 2020 (in press)

学会発表等：

招待研究発表：

- (1) M. Sato-Ilic, Fuzzy clustering-based non-linear dimensionality reduction, 13th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2019) and 12th International Conference of the ERCIM (European Research Consortium for Informatics and Mathematics) Working Group on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2019), E1166, p.63, 2019
- (2) M. Sato-Ilic, Statistical Data Science Based on Soft Computing, MIT-Tsukuba Joint-Workshop on Data Systems Science towards Social and Business Innovations, 2019

一般研究発表：

- (1) 村山喬則, 佐藤美佳, 高次元データに対するファジィクラスタリングの主成分分析による評価, 第 35 回ファジィシステムシンポジウム 講演論文集, pp. 203-208, 2019
- (2) Y. Toko, M. Sato-Ilic, S. Iijima, Improvement of training data based on pattern of reliability scores for overlapping classification, 16th Conference of the International Federation of Classification Societies, 2019

◆ その他（受賞）：

Best Paper Award 受賞, M. Sato-Ilic, Probabilistic Metric Based Multidimensional Scaling, Procedia Computer Sciences, Complex Adaptive Systems 2019, November 14, 2019, Philadelphia (USA)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・研究科ファカルティデベロップメント委員会委員
- ・研究科早期修了プログラム実施委員会委員
- ・研究科内部進学制度入学試験書面審査員
- ・全学ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員
- ・全学入試実施委員

◆ 専攻・学群・学類組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・リスク工学専攻教育企画委員会委員長
- ・リスク工学専攻達成度評価チェック委員会委員長

- ・リスク工学専攻カリキュラム委員会委員
- ・ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員
- ・社会工学類入試実施委員会委員長
- ・社会工学類運営委員会委員
- ・社会工学類授業評価・FD 委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ・独立行政法人 統計センター 理事（研究担当）
- ・公認会計士試験出題委員（金融庁）

海外業務：

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Country Representative for International Statistical Institute (ISI) Committee for Women in Statistics
- ・ Competition Chair, FUZZ-IEEE2019
- ・ Panel Sessions Chair, FUZZ-IEEE2021
- ・ Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Japanese Journal of Statistics and Data Science, Japan
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- ・ IEEE Senior Member
- ・ Member of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・ Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- ・ Board Member of International Society of Management Engineers

その他：

- ・ 日本知能情報ファジィ学会評議員
- ・ 日本分類学会運営委員・幹事（渉外担当）

氏 名	大澤 義明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画，地域科学，社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市解析／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／都市・地域・環境を探索 III
大学院：都市地域解析学

◆ 指導学生数：社会工学類 2 人／社会工学専攻（前期）15 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人／社会工学専攻（後期）2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] 走行税課金による道路インフラ維持管理－EV 化と車両認証のデジタル時代を迎えて－. 科研費・挑戦的研究(開拓)，研究代表者
[2] オープンイノベーションによる地域社会システムと次世代自動車交通基盤の研究. 共同研究（トヨタ自動車）. 研究代表者
[3] 過疎地における持続可能な社会インフラに関する研究. 共同研究（天塩町）
[4] 空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究. 科研費・基盤研究（B），研究分担者

◆ 著書・論文等：

[1] 四衢深，小林隆史，石井儀光，大澤義明 (2019)：地方において寺院は見守り・移動サービス拠点となりうるか. 都市計画論文集，No. 54-3，54(3)，pp. 1483-1489.

◆ 学会発表等：

[1] 西美佳，小林隆史，石井儀光，大澤義明 (2019)：ビジュアルマーケティング時代における眺望景観の定量解析. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年秋季研究発表会，pp. 24-25.
[2] 榎本崇宏，渡司悠人，小林隆史，大澤義明 (2019)：転入出に着目した関係人口の定義－茨城県を事例に－. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年秋季研究発表会，pp. 28-29.
[3] 加古捺巳，小林隆史，石井儀光，大澤義明 (2019)：ランダムストリップを用いた市街地整序化に関する分析. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年秋季研究発表会，pp. 40-41.

- [4] 中田浩二, 下津大輔, 徳田伊織, 櫻井一宏, 大澤義明 (2019): サッカースタジアムの MaaS 化. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年秋季研究発表会, pp42-43.
- [5] 川口明子, 大澤義明 (2019): 対数正規分布を活用した訪日外国人支出の平均値推定の試み. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年秋季研究発表会, pp142-143.
- [6] 安東弘泰, 高原勇, 大澤義明 (2019): 大学を拠点とするモビリティサービス. オペレーションズ・リサーチ, 64(8), pp. 447-452.
- [7] 古矢潤, 小又暉広, 石井儀光, 大澤義明 (2019): 自治体公用車エネルギーを活用した広域連携. 日本計画行政学会第 42 回全国大会.
- [8] 小又暉広, 石井儀光, 大澤義明 (2019): モビリティ改善を見据えた医療アクセシビリティに関する研究. 第 28 回地理情報システム学会研究発表会.
- [9] 野口宇宙, 小林隆史, 大澤義明 (2019): 平行道路網における交差点角度と道路密度に関する分析 - 自動運転時代を見据えて -. 第 28 回地理情報システム学会研究発表会
- [10] 渡司悠人, 鈴木勉, 大澤義明 (2019): 電柱最小経路の検出と防災対策への応用. 第 28 回地理情報システム学会研究発表会.
- [11] J. Ouyang and Y. Ohsawa (2019): Analytical Rideshare Model by Considering Locations of Drivers and Passengers - Why Ridesharing Fell Flat in Local Japan -. The 10th Asian Conference in Regional Science, (Shanghai, China).
- [12] Z. Dai, K. Tamura and Y. Ohsawa (2019): Spatial Analysis on Accuracy of Travelling Distance on Network. The 10th Asian Conference in Regional Science, (Shanghai, China).
- [13] 徳田伊織, 下津大輔, 中田浩二, 櫻井一宏, 小林隆史, 大澤義明 (2020): ライドシェアによる交通渋滞解消効果. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 24-25.
- [14] 堀越卓, 小又暉広, 渡司悠人, 大澤義明 (2020): 広域連携を意識した教育サービス圏域. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 88-89.
- [15] 鮑星宇, 渡司悠人, 小林隆史, 石井儀光, 大澤義明 (2020): 電柱配置は筑波山への車窓景観に配慮しているのか. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 144-145.
- [16] 小又暉広, 小嶋和法, 石井儀光, 大澤義明 (2020): モビリティ改善と医療アクセシビリティ向上. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 206-207.
- [17] 高瀬陸, 田宮圭祐, 鈴木勉, 大澤義明 (2020): 三角形分割グラフによる自治体県境率の理論化. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 288-289.
- [18] 鐘岱, 田村一軌, 大澤義明 (2020): ネットワーク平均距離を実現する需要集約点の位置. オペレーションズ・リサーチ学会 2020 年春季研究発表会, pp. 258-259.

◆ その他:
講演

- [1] 第 21 回筑波研究学園都市交流協議会講演「スマートシティ「つくばモデル」の実現に向けて～次世代自動車交通基盤を中心に～」(2019 年 6 月 28 日, つくば: 文部科学省研究交流センター) .
- [2] 産業競争力懇談会主催, COCN フォーラム 2019「デジタルスマートシティの構築」(2019 年 7 月 16 日, 東京: 大手町サンケイプラザホール) .
- [3] 経済産業省・国土交通省・前橋市主催, スマートモビリティチャレンジ前橋「つくばでの取り組み - 新モビリティサービス推進次号・スマートシティモデル事業 - 」(2019 年 11 月 19 日, 前橋: 前橋テルサ) .
- [4] 応用地域学会・佐賀大学経済学部主催, 応用地域学会一般公開セッション基調講演「つくばモデル」(2019 年 11 月 23 日, 佐賀: 佐賀大学本庄キャンパス) .
- [5] 応用地域学会・佐賀大学経済学部主催, 応用地域学会一般公開セッション「J クラブ・大学・地域の連携で切り拓く地方創生」パネルディスカッション (2019 年 11 月 24 日, 佐賀: 佐賀大学本庄キャンパス) .

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
システム情報工学研究科・研究科長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- [1] 応用地域学会・会長 (応用地域学会)
- [2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー (日本都市計画学会)
- [3] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員 (日本オペレーションズ・リサーチ学会)

◆ 自治体等

- [1] つくば市建築審査会・会長 (つくば市)
- [2] つくば市ホテル等建築建築審議会・会長 (つくば市)
- [3] つくば市未来構想等審議会・会長 (つくば市)
- [4] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長 (土浦市)
- [5] 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会・委員長 (土浦市)
- [6] 水戸市都市景観審議会・会長 (水戸市)
- [7] 水戸市都市景観専門委員会・委員 (水戸市)
- [8] 取手市立地適正化計画策定委員会・委員長
- [9] 潮来市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長
- [10] 潮来市振興計画審議会・会長 (潮来市)
- [11] 茗溪会・理事 (一般社団法人茗溪会)
- [12] 筑波学都資金財団評議委員会・理事 (一般社団法人筑波学都資金財団)
- [13] 中川育英会・評議員 (公益財団法人中川育英会)

- [14]つくばスマートシティ協議会最高運営会議・委員（つくばスマートシティ協議会）
- [15]常総市立地適正化計画策定検討会議・委員長（常総市）
- [16]つくばみらい市まち・ひと・しごと有識者会議・会長（つくばみらい市）
- [17]つくば中心市街地エリアマネジメント検討委員会・委員長（つくば市）
- [18]県立カシマサッカースタジアム周辺渋滞対策協議会・会長（茨城県）
- [19]筑波山周辺渋滞対策協議会・会長（茨城県）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業

- [1] つくば秀英高等学校（2019 年 7 月）
- [2] 天塩高等学校（2019 年 8 月）

氏 名	岡本 直久	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任(社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム担当)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	交通、観光、社会基盤、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 大学院 社会基盤計画学／観光の科学
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学専攻(博士前期課程・社会工学学位プログラム) 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・ 科学研究費・一般研究(C):意識分析にもとづく国外旅行意向の国際比較研究(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ 道路ネットワーク上の交通荷重情報収集を目的とした車重計の配置方法:土木学会論文集 D3(土木計画学)/75(2)/70 頁～89 頁, 共著(関谷 浩孝; 田名部 淳; 前田 雅人; 岡本 直久; 石田 東生), 2019
 - ・ Consciousness Analysis on Travel Behavior and Intention of People in Mainland China: Journal of Eastern Asia Society for Transportation Studies/13/pp.716-732, 共著(Kota TANAKA, Naohisa OKAMOTO, Yang XUE, Zhongdi PEI, Qi XIA, Yan CUI), 2019.12 (DOI: <https://doi.org/10.11175/easts.13.716>)
 - ・ つくば市における宅配便の利用実態と再配達依頼の規定因—配達人とのコミュニケーションに着目して—:土木計画学研究・講演集(CD-ROM)/59, 共著(宮谷台香純, 谷口綾子, 岡本直久)
- ◆ 学会発表等：
 - ・ お試し乗車券配布等の6年間のMMの取組による利用者定着までの道のり:第十四回日本モビリティ・マネジメント会議/2019-07-19--2019-07-20, 共著(和田早永, 内山征, 山根学, 山口大輝, 岡本直久)
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
日越大学 公共政策プログラム幹事校幹事

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
なし

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:JICA 専門家として 2019 年 3 月 21 日より 2020 年 3 月 31 日まで日越大学へ赴任(プログラム運営・実施(公共政策分野)ベトナム・ハノイ)

氏 名	川島 宏一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オープンデータ、自治体情報戦略、都市開発戦略		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類： 専門英語（都市計画）、都市と地域の経営行政論、現代まちづくりの理論と実践、都市計画実習

サービス工学学位プログラム： 公共インフラ設計

サービス工学ファシリテーター育成プログラム

社会工学学位プログラム：社会工学ファシリテーター育成プログラム

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 5 名

社会工学専攻博士後期課程（社会人）2 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 国土交通省受託研究「避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究」（代表）
- ・ 社会工学データバンクプロジェクト「AED データセット収集領域の拡大（埼玉県）」（代表）
- ・ （株）AGREE 学術指導「医療相談アプリ「LEBER」を用いた医療費削減効果のデータ解析に関する学術指導」（代表）

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

◆ 学会発表：

- ・ 「地域とテクノロジー」セッション（座長）、地域デザイン学会第8回全国大会、東海大学代々木キャンパス、2019. 8. 31
- ・ 公共データの特定第3 社共有メカニズムに関する日英比較研究、計画行政学会全国大会、徳島文理大学、2019. 9. 13

◆ その他：

講演等

- ・ これからのデータ活用、デジタルシティ TSUKUBA2019、つくばカピオ、2019. 5. 17
- ・ 自分がやりたいことを キャリアと繋げる方法、MediCareer セミナー、めんとるステーションつくば、2019. 6. 1
- ・ Hack My Tsukuba, Central Asia Forum, 筑波大学図書館ホール、2019. 6. 25
- ・ 講評、地方創生ワカモノ会合inつくば、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部
- ・ “つくばの社工” のコンセプト、筑波大学オープンキャンパス、筑波大学、2019. 8. 4
- ・ Sharing-on-Condition Practices in the Japanese Government, Open Data Forum in Shanghai、2018. 8. 8
- ・ データから価値を生み出すための方法、オープンデータ利活用セミナー、京都市、2019. 8. 19
- ・ 日中オープンデータ・トーク#1、パネルディスカッション、モデレーター、SENQ 霞ヶ関、2019. 8. 27
- ・ 日中オープンデータ・トーク#2、パネルディスカッション、モデレーター、日中オープンデータ・トーク#2、SENQ 霞ヶ関、2019. 9. 25
- ・ 地域情報科アドバイザーって何だろう？ 地域情報科アドバイザー全国会議、2019. 8. 29
- ・ Smart City and Data Sharing, International Open Data Summit, 2019. 10. 8
- ・ データから価値を生み出すための方法、第16回全国青年土地家屋調査士大会 in 茨城、つくばホテル東雲、2019. 11. 9
- ・ 社会工学類の紹介、竹園高校、2019. 11. 11
- ・ 避難遅れゼロを実現するための「みんなでマイタイムラインづくり」、広島

県自主防災リーダー研修、広島県健康福祉センター、2019.12.8

- ・ “両利き(二刀流)”の働き方のすすめ、つくば市工業団地企業連絡協議会セミナー、オークラフロンティアホテルつくば、2020.1.20

寄稿等

- ・ データ共有とまちづくり (1) - (9)、やさしい経済学、日経新聞、2019.9.27-10.9
- ・ オープンガバナンス推進に求められる政府・自治体職員の能力、月刊ガバナンス、2019.4

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ キャリアサポート部門専門委員会 委員
- ・ 学術情報メディアセンター運営委員
- ・ 系人事委員会委員
- ・ 系運営委員会委員
- ・ 系教育評価委員会委員
- ・ 研究科運営委員会委員
- ・ 研究家就職委員会委員
- ・ 理工学群運営委員会委員
- ・ 社会工学関係就職委員会（委員長）
- ・ 社会工学類長
- ・ 学類運営委員会委員
- ・ 学類入試委員会委員
- ・ 学類カリキュラム委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ 日越大学研究教育評議会 委員
- ・ 日越大学公共政策プログラム（修士課程）教育プログラムリーダー
- ・ 日越大学 公共政策プログラム運営委員会（委員長）
- ・ 日越大学 修士課程公共政策入試監理小委員会 委員
- ・ 筑波大学海外大学教育プログラムユニット運営委員会委員
- ・ 社会工学専攻運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

(学外組織からの委嘱委員等)

- ・ 内閣官房 データ流通環境整備検討会オープンデータワーキンググループ 構成員
- ・ 内閣官房 オープンデータ伝道師
- ・ 内閣府地方創生推進事務局 2020 年度地方創生推進交付金 第1回 Society5.0 タイプのモデル性に関する有識者審査会 座長
- ・ 総務省 ローカル5G地域課題実証評価会 委員
- ・ 総務省 データ利活用型スマートシティ推進の今後のあり方に 関する検討会 座長
- ・ ICT 地域活性化大賞審査委員
- ・ 総務省 ふるさとテレワーク推進事業評価委員
- ・ 総務省 テレワーク先駆者百選・同総務大臣賞審査委員会 委員
- ・ 総務省 地域情報化アドバイザー（アドバイザーリーダー）
- ・ 総務省 地域情報化アドバイザー幹事会委員
- ・ 総務省 グリーンフィールドへのデータ利活用型スマートシティ展開検討WG 座長
- ・ 総務省 放送事業の基盤強化に関する検討分科会 委員
- ・ 総務省 まちごとテレワーク調査事業 委員
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 委員
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 利用促進ワーキンググループ 座長
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 ユーザー支援タスクフォース委員
- ・ 富山県 富山県官民データ活用推進基本計画検討委員会委員
- ・ 水戸市 都市計画審議会 会長
- ・ 水戸市 景観審議会 委員
- ・ 水戸市 情報化推進専門委員会 委員
- ・ つくば市 顧問
- ・ つくば市 情報公開・個人情報保護審査会 委員
- ・ つくば市 つくば Society 5.0 社会実装トライアル支援事業審査委員会 委員
- ・ かすみがうら市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 座長
- ・ 独立行政法人情報処理推進機構 地方創生と IT 研究会 委員

- ・ 新エネルギー・産業技術総合開発機構 AI 技術等を活用する人材の育成に関する新規調査事業審査委員会 委員
- ・ (社) オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 利活用・普及委員会 委員
- ・ オープンガバナンスチャレンジ 2019 審査員

(以上)

氏 名	繁野麻衣子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化，ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／情報リテラシー（演習）／社会と最適化

大学院 応用最適化／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 7人

社会工学専攻(後期) 2人 社会工学専攻(前期) 13人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B)「新しい肺移植制度の構築と評価：ドナー交換移植の可能性」(分担)

科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「地域協働情報プラットフォームの構築と評価、資源余剰の最適割付けと社会合理的分配」(分担)

共同研究(経費無し) 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」

共同研究 松田電機工業所「中小企業における Big Data 解析の方法論の確立」

共同研究 株式会社 READ「生産管理自動化及び DigitalTransformation 推進」

◆ 著書・論文等：

Song Luo, Yuji Matsuura, Ying Miao, Maiko Shigeno, Non-adaptive group testing on graphs with connectivity, Journal of Combinatorial Optimization, 38, 278-291 (2019)

Kazuki Fujiwara, Maiko Shigeno, Ushio Sumita, A new approach for developing segmentation algorithms for strongly imbalanced data, IEEE Access, 7, 82970 - 82977

(2019)

Taketo Yoshida, Masaki Yano, Kenichiro Horikawa, Keita Sato, Shota Minami, Maiko Shigeno, Modeling and Evaluating Taxi Ride-sharing for Event Trips, IPSJ Transactions on Mathematical Modeling and Its Applications, 12, 1 - 11 (2019)

藤原和樹, 繁野麻衣子, 住田潮 「不均衡データに対する多段階学習を用いた アンサンブルモデルによる 2 クラス分類アルゴリズムの提案」情報処理学会論文誌, 数理モデル化と応用 (TOM) , 12(3), 10-17 (2019)

山本芳嗣 (編著), 基礎数学IV, 東京化学同人, 2019 (分担執筆)

◆ 学会発表等 :

Naoto Kimura, Maiko Shigeno, Ushio Sumita, Sota Usui, Ken Watanabe, Ryo Watanabe and Wenda Zhang " A case study on route planning for vehicles to improving loading efficiency," Proceedings of International Symposium on Scheduling 2019, 202-207

Ken Watanabe, Shota Minami and Maiko Shigeno " Routing and fare distribution for taxi ride-sharing with little dissatisfaction," Proceedings of International Symposium on Scheduling 2019, 208-213

繁野麻衣子, 「タクシーサービス活性化のための OR 的アプローチ」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季シンポジウム (招待講演) 2019 年 9 月

◆ その他 :

なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

研究科 入試実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

大学院 カリキュラム委員・入試委員 / 学類 カリキュラム委員・クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動 :

数理モデル高大連携

日本オペレーションズ・リサーチ学会編集担当理事

東京理科大学非常勤講師 (オペレーションズ・リサーチ担当)

氏 名	鈴木 勉	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），社会システムマネジメント専攻（分担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），サービス工学学位プログラム（分担），環境科学専攻（分担）		
担当学類	社会工学類，地球規模課題学士学位プログラム（分担）		
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析，地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

理工学群 数学リテラシー 1

社会工学類 線形代数 1／都市数理／都市計画実習／都市解析

地球規模課題 Seminars on Global Issues A-I/

学位 P（学士） Practical Training on Global Issues A-I

博士前期課程 リスク工学概論／都市・地域解析学／地域データ解析／
レジリエント都市計画演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻 7人／社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費（基盤研究(B)） 「空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究」

2019 年度大林財団研究助成 「モビリティ変革時代における集約型都市と広域公共交通設計に関する研究」

東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析」

消防防災科学技術研究推進制度 「地震火災時の不完全な覚知火災情報に基づくリアルタイム避難誘導支援に関する研究」（分担）

トヨタ自動車共同研究「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: Quantifying e-bike applicability by comparing travel time and physical energy expenditure: A case study of Japanese cities, Journal of Transport & Health, Vol.13, pp.150-163, 2019.

鈴木 勉・石井儀光・長谷川大輔・劉 俐伶：均等性と集積性の指標を用いた都市内人口分布の長期的変化の分析—ジニ係数とモラン係数による過去・現在・未来の都市空間構造—，都市計画論文集，Vol.54, No.2, pp.191-196, 2019.

劉 俐伶・長谷川大輔・石井儀光・鈴木 勉：世界主要都市の都市空間構造の比較分析—均等性と集積性の指標を用いた都市内人口分布比較—，都市計画論文集，Vol.54, No.3, pp.1512-1517, 2019.

田宮圭祐・鈴木 勉：行政界による影響に着目した道路網の接続度に関する定量分析，都市計画論文集，Vol.54, No.3, pp.652-657, 2019.

Sunyong Eom, Tsutomu Suzuki, Myeong-Hun Lee: A land-use mix allocation model considering adjacency, intensity, and proximity, International Journal of Geographical Information Science, Vol.34, No.5, pp.899-923, 2020. DOI: 10.1080/13658816.2019.1687899

◆ 学会発表等：

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: Embrace Mixed Traffic with E-bikes?: Road Space Reallocation Scenarios in a Multi-agent Model, International Workshop on Urban Operations Research 2019, Nanzan University, Nagoya, July 19-21, 2019.

Jing Feng, Tsutomu Suzuki: Feature Analysis of Station Distribution in Public Bicycle System Based on Web Crawler Massive Data, International Workshop on Urban Operations Research 2019, Nanzan University, Nagoya, July 19-21, 2019.

Yumeng Huang, Tsutomu Suzuki: Safe and Comfortable Built Environment of Physical Activity on the Sideways of Urban Area, International Workshop on Urban Operations Research 2019, Nanzan University, Nagoya, July 19-21, 2019.

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: A Study on Compatibility of E-bikes on Road Using Microscopic Traffic Flow Simulation, International Conference of Asian-Pacific Planning Societies 2019 (APPS 2019), Seoul, Korea, August 22-24, 2019.

田宮圭祐・鈴木 勉：市町村合併に伴う行政界の変化と道路網の接続度に関する分析，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.176-177, 2019.

劉楊成漢・鈴木 勉：トラックとドローンの併用による配達効率化分析，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.180-181, 2019.

鈴木 勉：警備ゲームモデルに基づく警備戦略と犯罪抑制効果，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.22-23, 2019.

田宮圭祐・鈴木 勉：施設の広域利用の観点から見た行政界と道路網の関係に関する研究，地理情報システム学会講演論文集，2019.

劉楊成漢・鈴木 勉：トラックとドローンを併用した配達効率化に関するモデル分析，地理情報システム学会講演論文集，2019.

渡司悠人・鈴木 勉・大澤義明：電柱最少経路の検出と防災対策への応用，地理情報システ

ム学会講演論文集, 2019.

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: E-Bike Applicability Quantification By Comparing Convenience, International Conference on Transport & Health 2019, Pullman Melbourne on the Park, Melbourne, Australia, November 4-8, 2019. (poster)

高瀬陸・田宮圭祐・鈴木 勉・大澤義明: 三角形分割グラフによる自治体県境率の理論化, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.288-289, 2020.

覃 琦文・鈴木 勉: 地下鉄駅改良工事による旅客流動改善効果のシミュレーション分析, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.250-251, 2020.

佐野雅人・鈴木 勉: 複数種類の施設の周遊利用を考慮した都市拠点配置モデル, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.134-135, 2020.

鈴木 勉: 境界による道路網の分断が立地ポテンシャルに与える影響, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.94-95, 2020.

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学教養教育機構委員

地球規模課題学位プログラム (学士) 運営委員会委員

システム情報工学研究科戦略委員会学位プログラム WG 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

リスク工学専攻学務カリキュラム委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員会委員

応用地域学会応用地域学研究編集委員

茨城県県西地域公共交通確保対策協議会委員長

常総市公共交通活性化協議会会長

守谷市公共交通活性化協議会委員

神栖市地域公共交通会議委員

筑西市地域公共交通会議委員

八千代町地域公共交通会議委員

鉾田市地域公共交通会議委員

土浦市地域公共交通活性化協議会会長

阿見町立地適正化計画策定委員会委員長

氏 名	谷口綾子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，都市リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画実習，都市計画インターンシップ，交通運輸政策，都市計画入門，情報リテラシー演習

【大学院前期課程】都市リスク・コミュニケーション，リスク工学特別演習，リスク工学基礎
リスクマネジメント序論，

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 7 名 社会工学専攻 1 名 社会工学類 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(基盤 B(代表)) ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析
2. 科学研究費(挑戦的萌芽)(代表) 道路上の異モード間コミュニケーションの生起と社会的受容
3. 科学研究費(基盤 B)(分担) 成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生 (代表：筑波大学谷口守)
4. 科学研究費(基盤 B(分担)) 子育て世帯の多様なライフスタイル実現のための都市のバリアと心のバリアの緩和策(代表：宇都宮大学大森宣暁)
5. 受託研究 NEDO(分担) 「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム／大規模実証実験／社会の受容性に関する総合調査」のうち「海外事情を対象に，市民目線から自動運転受容性向上対策のポイントを調査」(代表：名古屋大学森川高行)

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) 瀬藤乃介，谷口綾子，石田東生：通学状況が子どもの心身の健康に与える影響，土木学会論文集 D3，Vol. 75 No.5，pp. I_1069-I_1079，2019．DOI https://doi.org/10.2208/jscejipm.75.I_1069

- (2) Wang, Z., 谷口綾子, Enoch, M., Ieromonachou, P., 森川高行：自動運転システムに対する賛否意識の日英比較分析—リスク認知に着目して，土木学会論文集 D3, Vol. 75 No. 5, pp.I_191-I_200, 2019. DOI https://doi.org/10.2208/jscejipm.75.I_191
- (3) 中尾聡史, 川嶋優旗, 谷口綾子：新聞報道にみる明治から戦前における子供の交通に関する歴史的変遷，実践政策学研究, Vol.5, issue 2, pp.187-197, 2020.
- (4) Waygood, E.O.D., Friman, M., Taniguchi, A., Olsson, L. (2019 online) The Role of Children's Independent Mobility and Social Media Use for Face-to-Face Social Interaction with Friend, Transportation, pp.xx-xx. DOI : 10.1007/s11116-019-10037-3
- (5) Hino, K., Taniguchi, A., Hanazato M., Takagi, D. (2019 online) Modal shift from cars and promotion of walking by providing pedometers in Yokohama city, Japan, International Journal of Environmental Research and Public Health, Volume 16, Issue 12, 2144, pp.xx-xx. DOI: 10.3390/ijerph16122144
- (6) Nishihori, Y., Kimura, K., Taniguchi, A., Morikawa, T. (2020) What Affects Social Acceptance and Use Intention for Autonomous Vehicles --Benefits, Risk Perception, or Experience? -Meta-Analysis in Japan-", International Journal of Intelligent Transportation Systems Research, Vol.18-1, pp 22-34. DOI: <https://doi.org/10.1007/s13177-018-0170-x>

■査読付きプロシーディングス

- (1) **Taniguchi, A.**, Seto, D. (2019) The effects of commuting on the health of high school students, Proceedings of 5th International Conference on Transport and Health, held in Melbourne, Australia, November 2019.
- (2) Nemoto, M., **Taniguchi, A.**, Sasaki, K., and Kosuge, H. (2019) Psychological effects of a cognitive test on elderly drivers: A main effect and a side effect, Proceedings of 5th International Conference on Transport and Health, held in Melbourne, Australia, November 2019.
- (3) Fumoto, K., **Taniguchi, A.** (2019) The Impact of Motivation for Driving and Transport Environment Satisfaction on Travel Behaviour and BMI: Nationwide Person Trip Survey in Japan, Proceedings of 5th International Conference on Transport and Health, held in Melbourne, Australia, November 2019.
- (4) Kimura, K., Miyazawa, N., Seki, Y., **Taniguchi, A.** (2019) Feasibility Analysis of Mobility Management in Hanoi and Ho Chi Minh City, Vietnam, Proceedings of EASTS 2019, held on Colombo, Sri Lanka.

■著書： 該当無し

◆ 学会発表等：

- (1) 木村航太, 宮澤菜々子, 谷口綾子, 川辺了一, 武田圭介：インタビューによるモビリ

ティ・マネジメントの実行可能性調査-ラオス首都を対象として-, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.

- (2) 谷口綾子, 王子霖, Fanny Paschek : Uber 自動運転車両による歩行者死亡事故報道がドイツの市民に与えた影響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (3) Wang Zilin, 谷口綾子, Marcus Enoch, Petros Ieromonachou, 森川高行 : 自動運転システムの社会的受容の日英独比較分析—クルマ運転動機と賛否意識の關係に着目して-, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (4) 中尾聡史, 川嶋優旗, 谷口綾子 : 戦後における「子供と交通」に関する新聞報道分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (5) 川嶋優旗, 中尾聡史, 谷口綾子, 南手健太郎 : 高度経済成長期の NHK 番組にみる自動車の社会的受容—交通事故に着目して—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (6) 韓旭, 谷口綾子, 木村慎二, 石田東生 : 日本人・外国人観光客の地域愛着の規定因の差異に関する研究-青森奥入瀬を対象として-, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (7) 根本美里, 谷口綾子, 佐々木邦明, 小菅英恵 : 高齢ドライバー向け認知機能検査の心理的効果と副作用の可能性, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (8) 瀬藤乃介, 谷口綾子 : 小中高での通学経験が大学生の交通行動・意識に与える影響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (9) 神田佑亮, 谷口綾子, 弘田陽介, 山田真世, 瀬藤乃介 : 子どもの描写解析を通じた幼児向け教育 MM の効果分析手法に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.60, 2019.
- (10) 宮谷台香純, 谷口綾子, 岡本直久 : つくば市における宅配便の利用実態と再配達依頼の規定因—配達人とのコミュニケーションに着目して—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.
- (11) 根本美里, 谷口綾子, 佐々木邦明, 萩田賢司, 小菅英恵 : 高齢者の交通安全と免許返納に対する態度に関する基礎的研究—インタビュー調査の質的分析を用いて—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.
- (12) 佐々木彩葉, 谷口綾子, 白水真理子, 中原慎二 : 血糖測定フェアにおける健康モビリティ・マネジメント : 神奈川県横須賀市を対象として, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.
- (13) 中尾聡史, 川嶋優旗, 谷口綾子 : 明治から戦前における「子供と交通」に関する新聞報道分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.
- (14) 麓国広, 佐々木彩葉, 谷口綾子 : 交通環境への満足度とクルマ運転動機が交通行動と BMI に与える影響—全国 PT 調査を用いて—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.

- (15) 崔文竹, 片山茜, 谷口綾子, 谷口守: 生活習慣継続に対する阻害リスクの実態-個人の性格を考慮して-, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.59, 2019.

◆ その他:(論説)

- (1) 谷口綾子:「空間を改善し譲り合いを」, 朝日新聞「耕論」オピニオン欄, 2020年2月11日朝刊.
- (2) 谷口綾子:「子供を歩かせない大人」がもたらすリスク, 新都市, vol.74, No.1 (2020年1月号巻頭言), pp.3-8, 2020.
- (3) 谷口綾子:自動運転システムに対する日本人の社会的受容性ー賛否意識, 利用意図, リスク認知, 信頼に着目してー, 住宅, vol.68, pp.19-23, 2019.
- (4) 谷口綾子:特定保健指導教室におけるモビリティ・マネジメントー健康福祉部署と都市計画部署の連携プロジェクトとその課題, 都市計画, vol.68, No.5, pp.60-61, 2019.
- (5) 谷口綾子:大規模イベントのモビリティ・マネジメントの留意点私案, 交通工学, vo.54, No.4, pp.xx-xx, 2019.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

研究戦略室 URA 室員

筑波大学交通安全会 理事

システム情報工学研究科 広報委員

つくば3Eフォーラム 都市構造タスクフォース座長

つくばエコシティ推進グループ:キャンパス交通システムの利用促進

筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進

2019年度夏期社会工学類オープンキャンパス 模擬実習「交通すごろく」講師

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

リスク工学専攻:広報委員長, 障害学生支援委員

4. 学外の社会貢献

◆ 講演・パネルディスカッション

- (1) JICA 集団研修 総合都市交通計画「Mobility Management: essence and key points」
講師 2019年11月15日

- (2) 第57回日本医療・病院管理学会学術総会メインシンポジウムⅡ:予防からみた持続可能な自治体の在り方と医療の役割:「都市工学と医療の融合がなぜ必要か」 パネリスト, 2019年11月3日, 新潟朱鷺メッセ

- (3) CASE (Connected, Autonomous, Shared & Services and Electric)研究会,「自動運転

システムの社会的受容－規定因と変容可能性に着目して」講演「，主催：名古屋大学講演 2019 年 10 月 18 日

- (4) 国土交通大学校 道路計画「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 講師 2019 年 10 月 30 日
- (5) 交通エコロジーモビリティ財団 第 9 回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(福島県会津若松市) 講師 2019 年 9 月 24 日～26 日
- (6) 筑波大学 教員免許更新講習「実習と実験による役に立つ防災教育」講師 2019 年 8 月 2 日
- (7) 令和元年度龍ヶ崎市長寿大学における基調講演「バスや電車をかしこく使いこなそう」 2019 年 7 月 18 日.
- (8) フィリピン国フィリピン鉄道訓練センター設立・運営能力強化支援プロジェクト Metro Mania Subway Project - Detail Design, セミナー講師「Mobility Management: essence and key points」 2019 年 7 月 15 日(マニラ市, フィリピン)
- (9) 一般財団法人計量計画研究所 第 11 回モビリティ・マネジメント技術講習会 基調講演「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2019 年 7 月 4 日.
- (10) THE 1st JOINT COORDINATION COMMITTEE MEETING (JCC) (The Project for Institutional Capacity Building for Sustainable Urban Transport System in Lao PDM) 基調講演 「Mobility Management: essence and key points」 2019 年 4 月 1 日(ビエンチャン市, ラオス)

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- 国土交通省 社会資本整備審議会 本委員 2020 年 3 月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 委員 2020 年 3 月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 計画部会 委員 2020 年 3 月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 委員 2020 年 3 月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 技術部会 委員 2020 年 3 月～
- 内閣府 規制改革推進委員会 委員 2019 年 10 月～
- 藤沢市都市計画審議会 委員 2019 年 8 月～
- つくばみらい市まち・ひと・しごと有識者会議 委員 2019 年 7 月～
- 小山市コミュニティバス モビリティ・マネジメント検討会 座長 2019 年 5 月～
- JICA ラオス The Project for Institutional Capacity Building for Sustainable Urban Transport System in Lao PDM 国内支援員 2019 年 1 月～
- 国土交通省 関東地方整備局 東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会 生活圏WGの委員 2018 年 9 月～
- 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメント検討委員会 委員 2017 年 12 月～

- 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017 年 8 月～
- 滋賀県庁 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討委員会委員 2017 年 10 月～
- 東京都渋谷区 渋谷区都市計画審議会専門部会 2017 年 9 月～
- 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017 年 4 月～
- 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨時委員 2016 年 11 月～
- 国土交通省北海道局 国土審議会北海道開発分科会計画推進部会 委員 2016 年 11 月～
- 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015 年 7 月～
- 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員 2014 年 9 月～
- 国土交通省 都市局 全国都市交通特性調査検討会 WG 委員 2014 年 6 月～
- 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員 2014 年 6 月～
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012 年 1 月～
- 茨城県 第 74 回国民体育大会茨城県準備委員会 輸送・交通専門委員会 委員 2014 年 1 月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012 年 10 月～
- 龍ヶ崎市 地域公共交通活性化協議会 副委員長
- 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 2009 年 1 月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008 年 10 月～
- 交通エコロジー・モビリティ財団 EST 普及推進委員会 委員 2005 年～

以上

氏 名	谷口 守	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／都市計画原論／総合科目「都市・地域・環境を探究」／
大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／社会基盤計画学／美しい国土づくり
への挑戦（Ⅱ）／モビリティ・イノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会工学専攻（博士後期）3人／社会工学専攻（博士前期）16人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生」(代表)

科学研究費 新学術領域研究「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」
(分担)

共同研究 トヨタ自動車(株)「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」(分担)

寄付金 一般財団法人小林国際都市政策研究財団 研究助成(代表)

寄付金 大東建託株式会社「モビリティ・イノベーションと居住環境向上に関する
研究」(代表)

◆ 著書・論文等：

谷口守編著：世界のコンパクトシティ、都市を賢く縮退するしくみと効果、学芸出版社、
2019.12.

谷口守：次世代モビリティ社会を見据えた都市・交通政策、一欧州の統合的公共交通シス
テムと都市デザイナー、公益財団法人日本都市センター、pp.3-11、pp.74-77、pp.215-233、
2020.3.

◆ 査読付き論文：

Wenzhu Cui, Akane Katayama, Hiroki Shimizu and Mamoru Taniguchi: Inhibitory
Risks Affecting the Maintenance of Healthy Lifestyle Habits, —A Study Based on

Demographic Factors and Personality Traits－, International Journal of
Environmental Research and Public Health, Vol.16, 2019.

森本瑛士・下山悠・岡野圭吾・谷口守：移動からみる拠点間の連携実態、一宇都宮都市圏
を対象として－、土木学会論文集 D3、Vol.75, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.36)、
I_529-I_526、2019.

藤井達哉・一井啓介・谷口航太郎・谷口守：頭脳流出が地方に及ぼす累積的影響、一大学
入試偏差値を用いた分析と推計－、土木学会論文集 D3、Vol.75, No.5 (土木計画学研
究・論文集、Vol.36)、I_259-I_268、2019.

崔文竹・御手洗陽・谷口綾子・谷口 守：健康増進のための生活習慣継続に対する阻害要
因、一「中断」を含めた行動変容ステージに着目して－、土木学会論文集 D3、Vol.75、
No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.36)、I_285-I_294、2019.

平間尚夏・御手洗陽・谷口守：子育て・介護がもたらす活動格差の実態とその改善策、
一活動量と生活満足度に着目して－、都市計画論文集、No.54-2、pp.154-162、2019.

岡野圭吾・小松崎諒子・片山茜・谷口守：人口減少都市における拠点での施設立地の実態、
一都市機能誘導区域のあり方を考える－、都市計画論文集、No.54-3、pp.508-515、2019.

下山悠・森本瑛士・谷口守：市町村による拠点計画における階層性の実態と課題、一群馬
県における事例研究－、都市計画論文集、No.54-3、pp.500-507、2019.

森本瑛士・高橋諒・谷口守：都市サービス施設の立地動向からみた拠点の簡易診断、一拠
点の維持に向けた基礎的検討－、都市計画論文集、No.54-3、pp.539-546、2019.

一井啓介・高原勇・谷口守：住宅街区特性を踏まえたスマートグリッド直流化効果の検証
土木学会論文集 D3、Vol.75、No.6 (土木計画学研究・論文集、VOL37) pp.I_231-I_238、
2020.

御手洗陽・東達志・谷口守：小さな拠点における都市機能確保に資する機能搭載型自動運
転車(ADVUS)の活用可能性、一医療サービスに着目して－、土木学会論文集 D3、Vol.75、
No.6 (土木計画学研究・論文集、VOL37) pp.I_277-I_285、2020.

伊藤将希・高野裕作・川崎薫・谷口守：自治体属性がモビリティ政策決定に及ぼす影響、
一立地適正化計画と地域公共交通網形成計画に着目して－、土木学会論文集 D3、Vol.75、
No.6 (土木計画学研究・論文集、VOL37) pp.I_537-I_546、2020.

下山悠・森本瑛士・森尾淳・谷口守：広域からみる拠点計画の階層実態・施設・トリップ
に着目して、土木学会論文集 D3、Vol.75、No.6 (土木計画学研究・論文集、VOL37)
pp.I_299-I_307、2020.

◆ 論説

谷口守：移住者にとっての魅力を探る、月刊事業構想、イノベーション特集：5Gのビジ
ネスチャンス、pp.22-23、2019.4.

谷口守：生活習慣病化する都市に向き合う、一無理をしない効果的なまちづくりを考える

- 一、土地総合研究、Vol.27, No.2、特集：都市のスポンジ化にどう対応するか、～改正都市再生特別措置法も踏まえて～、pp.32-35、2019.5.
- 谷口守：地域再生を考える、一都市の生活習慣病を防ぐ観点から一、Landscape Design、No.126、団地再生とコミュニティの再生、pp.21-24、2019.6.
- 谷口守・森本瑛士・川崎薫：モビリティサービスの階層性と地域拠点、一自動車型小さな拠点の可能性一、オペレーションズ・リサーチ、Vol.64、No.8、pp.16-21、2019.8.
- 谷口守：多様化するコンパクトシティ政策の効果を考える、区画整理、pp.6-12、2019.8.
- 谷口守：生活習慣病化する都市に向き合う、都市計画学会（特集）健康なまち、健康になれるまち、Vol.65、No.5、pp.51-55、2019.9.
- 井上茂・久野譜也・小泉秀樹・谷口守・藤井聡：医療・福祉分野と都市計画分野の連携可能性、都市計画学会（特集）健康なまち、健康になれるまち、Vol.65、No.5、pp.66-73、2019.9.
- 谷口守：自動運転を都市はどう受け止めるのか、一道路・駐車場・環境・都市構造の視点から一、住宅、Vol.68、pp.24-27、2019.9.
- 谷口守：コンパクト・プラス・ネットワークと地方都市、一人口減少時代の生活習慣病化する都市に向き合う一、市街地再開発、No.593、pp.40-43、2019.9.
- 谷口守：街路構造令制定から100年にあたって（巻頭言）、都市と交通、Vol.116、p.1、2019.12.
- 谷口守：Walkabilityの時代へ、特集：ウォーカビリティと不動産、日本不動産学会誌、No.130、(Vol.33-3)、pp.31-33、2019.12.
- 井上由紀子・北村知久・沓澤隆司・谷口守・福井秀夫・宗健：コンパクトシティの行方、～都市の消失を止められるのか・様々な視点から見たコンパクトシティ～、日本不動産学会誌、No.130、(Vol.33-3)、pp.4-28、2019.12.
- 谷口守：人口減少時代のコンパクトなまちづくり、国際文化研修、Vol.106、pp.24-28、2020.1.
- 谷口守・川崎薫・東達志：Society5.0時代の関係人口を考える、地域開発、Vol.632、pp.26-30、2020.2.
- 谷口守：コンパクトシティ実現の条件、「協調して減らす」最優先に、日本経済新聞、経済教室、2020.3.2.

◆ 学会発表等：

◆ 口頭発表：

- 崔文竹・片山茜・谷口綾子・谷口守：生活習慣継続に対する阻害リスクの実態、一個人の性格を考慮して一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P102、pp.1-10、2019.6.
- 御手洗陽・東達志・谷口守：モビリティ・イノベーションによる小さな拠点の消滅防止策、一機能搭載型自動運転車(ADVUS)の活用を通じて一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、

P103、pp.1-8、2019.6.

岡野圭吾・清水宏樹・谷口守：拠点への集約を見据えた都市の可逆性把握、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P115、pp.1-8、2019.6. [優秀ポスター賞受賞]

一井啓介・高原勇・谷口守：再エネ活用に向けたスマートグリッド直流化効果の検証、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P116、pp.1-7、2019.6.

下山悠・森本瑛士・森尾淳・谷口守：広域的にみた拠点の階層性に関する実態分析、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P119、pp.1-7、2019.6. [優秀ポスター賞受賞]

東達志・高橋諒・谷口守：シェア型自動運転車の普及がもたらす車両走行距離の変化、一都市特性に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P126、pp.1-8、2019.6.

張雅亭・小松崎諒子・谷口守：中国の高速鉄道駅が周辺の都市空間変容へ与える影響一整備手法の特徴を中心として一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P131、pp.1-6、2019.6.

伊藤将希・高野裕作・川崎薫・谷口守：モビリティ政策の策定状況と自治体属性との関係性、一立地適正化計画と地域公共交通網形成計画を介して一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P137、pp.1-8、2019.6.

森本瑛士・下山悠・谷口守：機能別にみる医療施設の拠点集積実態、一拠点間補完を考慮して一、土木計画学研究・講演集、Vol.59、P235、pp.1-7、2019.6.

東達志・清水宏樹・高原勇・谷口守：都市特性からみるシェア型自動運転車の影響比較、一国内外都市の車両走行距離の変化に着目して一、都市計画報告、No.18、pp.106-111、2019.8.

相馬佑成・笹林徹・谷口守：都市特性に着目した通院行動分析、一医療 MaaS の実現を見据えた基礎的検討一、都市計画報告、No.18、pp.234-239、2019.11.

東達志・御手洗陽・小松崎諒子・谷口守：都市機能充足のための機能搭載型自動運転車 (ADVUS) の導入可能性、一人口変化に対する柔軟な対応策として一、都市計画報告、No.18、pp.228-233、2019.11.

◆ その他：

受賞：都市計画学会論文賞／都市計画学年間優秀論文賞／不動産学会賞・著作賞／

指導学生受賞（香月秀仁・東達志・高原勇：都市計画学会年間優秀論文賞／下山悠：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／岡野圭吾：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／下山悠：卒修論同窓会賞選考会 優秀賞／小松崎諒子：卒修論同窓会賞選考会 優秀賞／東達志：筑波大学社会工学専攻長賞／片山茜：筑波大学社会工学専攻長賞／小松崎諒子：筑波大学理工学群長賞／小松崎諒子：倉谷賞／清水宏樹：茗溪会賞）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学務・カリキュラム委員、早期修了プログラム実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員長、学類2年生担任、地域未来創生コース担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 学会活動（役員／委員）
交通計画協会 代表理事
日本モビリティ・マネジメント会議 理事
日本不動産学会 理事
日本都市計画学会 都市構造可視化特別委員会委員長
認定都市プランナー評価委員会 委員
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会
都市計画基本問題小委員会」 臨時委員
国土交通省 「交通政策審議会」 臨時委員
国土交通省 「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」 委員
国土交通省 「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会」 委員
国土交通省 「「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会」 委員
国土交通省 「河川技術評価委員会 流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員
内閣府 「i-都市再生推進委員会」 委員
内閣府 「i-都市再生交通モジュール検討会」 委員長
環境省 「中央環境審議会 総合政策部会 環境研究・技術開発推進戦略専門委員会」
委員
環境省 「CO2 排出削減対策技術評価委員会 交通低炭素化技術開発分野分科会」
委員
東京都市圏交通計画協議会 「東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会」 座長
計量計画研究所 「全国都市交通特性調査検討会」 委員
都市再生機構 「独立行政法人都市再生機構 事業評価監視委員会」 委員
公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤認証・普及等委員会」 委員
低炭素社会創出促進協会 「公共交通機関の低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業
（低炭素化に向けた LRT・BRT 導入利用促進事業）審査委員会」 委員
茨城県 「茨城県都市計画審議会」 副委員長

茨城県	「茨城県土地利用審査会」委員
茨城県	「茨城県国土利用計画審議会」委員
福岡県	「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」委員
和歌山県	「和歌山県都市計画審議会」会長
新潟市	「新潟市新バスシステム事業評価委員会」委員長
倉敷市	「倉敷市地域公共交通会議」議長
世田谷区	「世田谷区「自治体経営のあり方研究会」」副座長
石岡市	「石岡市都市計画審議会」委員長
大磯町	「大磯町まちづくり審議会」委員
境町	「境町都市計画マスタープラン改定及び境町立地適正化計画策定協議会」 座長
積水インテグレートドリサーチ	「積水化学自然に学ぶものづくり研究助成 プログラム」委員
日本みち研究所	「道路空間高度化研究会」委員
日本都市センター	「海外のモビリティ政策に関する調査に係るワーキンググループ」 座長

氏 名	張 勇兵	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー（講義）／情報技術実験／プログラミング実習
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類生：1人
 - 社会工学専攻博士後期課程：2名
 - 社会工学専攻博士前期課程：7名
 - 社会工学専攻研究生：6名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスディック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] K. Guo, M. Yang, Y. Zhang, and J. Cao: Joint Computation Offloading and Bandwidth Assignment in Cloud-Assisted Edge Computing, *IEEE Trans. Cloud Computing*, Accepted for publication (October 2019). DOI: 10.1109/TCC.2019.2950395
 - [2] M. Yang, Q. Wu, K. Guo, and Y. Zhang: Evaluation of Device Cost, Power Consumption and Network Performance in Spatially and Spectrally Flexible SDM Optical Networks, *IEEE/OSA J. Lightwave Technology*, Vol. 37, No. 20, pp. 5259-5272, (October 2019). DOI: 10.1109/JLT.2019.2931143
 - [3] M. Yang, Q. Wu, K. Guo, and Y. Zhang: Evaluation of Network CAPEX and Performance in SDM Optical Networks, Proc. IEEE 24th OptoElectronics and Communications Conf./Int. Conf. Photonics in Switching and Computing (OECC/PSC 2019), 3 pages, Fukuoka, Japan (July 2019).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

香港理工大学との国際交流協定責任者

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類コンピュータ委員、社会工学専攻コンピュータ委員、社会工学専攻運営委員、社会工学専攻サービス工学学位プログラムリーダー、システム情報工学研究科運営委員、システム情報系部局情報環境委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) **Associate Editor** (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
- 2) **Program Committee**, [IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference \(IWCMC2019\)](#), Tangier, Morocco, June 24-28, 2019.
- 3) **Program Committee**, Distributed Green Computing and Energy Management Track, [IEEE International Conference on Distributed Computing Systems \(IEEE ICDCS2019\)](#), Dallas, Texas, July 7-10, 2019.
- 4) **Program Committee**, Mobile and Wireless Network Computing Track, [IEEE International Conference on Distributed Computing Systems \(IEEE ICDCS2019\)](#), Dallas, Texas, July 7-10, 2019.

氏 名	堤 盛人	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻，サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	空間統計学，土木計画学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価 都市計画マスタープラン実習（共同） 都市数理（共同）

大学院 公共インフラ計画（共同） モビリティ・イノベーションの社会応用（分担）
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

社会工学専攻 博士前期課程 2人 博士後期課程 1人 研究生 4人
- ◆ 学生の受賞：

2020年3月 江端杏奈 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻長表彰

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『空間計量経済学における最重要課題への挑戦と新たな展開』

研究代表者 日本学術振興会学術研究助成基金助成金・挑戦的研究（萌芽）『組成データ解析の新たな展開』

研究代表者 国土交通省国土技術政策総合研究所（審議会等公募型） 受託研究 『地方自治体における道路維持管理業務のための道路構造物に関する情報の利活用方策』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 一般社団法人 三幸オフィス基金 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』

研究代表者 株式会社タス 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』
- ◆ 著書・論文等：

1) Takahiro Yoshida, Rim Er-rbib, Morito Tsutsumi: Which Country Epitomizes the World? A Study from the Perspective of Demographic Composition, Sustainability, Vol.11, Iss.22,

2019.

◆ 学会発表等：

- 1) 大谷仁志・梅賀亮太・今村政夫・堤盛人：「木造密集地域の狹隘道路計測システムの開発」,
『日本写真測量学会 平成 31 年度 年次学術講演会 発表論文集』, pp.123-126, 2019.
- 2) 松尾 和史・堤 盛人：「世帯構成の変化が賃貸住宅市場に与える影響」, 日本不動産金融工
学学会, 2 月 29 日, 2020, 中央大学（後樂園キャンパス）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻：カリキュラム委員会委員長・論文委員会委員
社会工学類：共通数学関係学類連絡会メンバー
- ◆ 日越大学公共政策プロジェクト運営委委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員, 論文査読等）
 - 1) 一般社団法人日本写真測量学会 評議員
 - 2) 日本不動産金融工学学会 評議員
 - 3) 応用地域学会 論文編集委員会委員長
 - 4) 査読委員/査読者：応用地域学研究, 土木学会論文集 F4（建設マネジメント）, 日本不動産
学会学術講演会
- ◆ 社会的活動
 - 1) 総務省 『政策評価審議会』 専門委員
 - 2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員
 - 3) 国土地理院 『平成 31 年度測量士・測量士補試験審査委員会』 委員
 - 4) 国土交通省 『道路に係る事業評価検討会』 委員長
 - 5) 国土交通省 『地域道路経済戦略検討会』 委員
 - 6) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
 - 7) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員
- ◆ その他兼業
株式会社タス 非常勤顧問

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻（専任）、生命環境科学研究科持続環境学専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻社会工学学位プログラム（専任）、生命環境科学研究科環境科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学 類 都市計画の歴史／住環境計画実習／設計演習Ⅱ
 - 大学院 都市形成史（環境計画史）/社会工学 WSⅠ・Ⅱ

- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人
 - 社会工学専攻 19人
 - 生命環境科学研究科 環境科学専攻 1人
 - 社会工学専攻研究生 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・ 科学研究費・基盤研究（B）「江戸武家地の成熟過程に関する建築史・都市史的研究」（代表）
 - ・ 石岡市「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」（代表）
 - ・ 結城市「結城市伝統的建造物群保存対策調査研究」（代表）
 - ・ トヨタ「オープンイノベーションによる地域社会システムと次世代自動車交通基盤の研究」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ 藤川昌樹「石岡市旧市街地の町家-看板建築を中心に-」（『第5回石岡市文化財調査報告会発表要旨』、pp.2-3、石岡市教育委員会、2019年8月）
 - ・ 藤川昌樹・綿引由美「農村における空間的秩序とモビリティサービス：茨城県石岡市八郷地域の旧上曽村を事例として」（『オペレーションズ・リサーチ』64-8、pp.466-472、2019年8月）
 - ・ 余思奇・藤川昌樹「清代五台山鎮海寺の建築の構成とその変容」（『日本建築学会計画系論文報告集』766、pp.2,659-2,668、2019年12月）

- ・平井聖・後藤治・藤川昌樹ほか編著『日本の建築文化事典』（丸善出版、全 734 頁、2020 年 1 月）
- ・結城市・結城市教育委員会（河東義之・藤川昌樹・安高尚毅・藤井さやか・横内基・今井文子・高橋祐太郎・阿部哲也・齋藤達也執筆）『結城の町並み：伝統的建造物群保存対策調査報告書』（結城市・結城市教育委員会、全 228 頁、2020 年 3 月）

◆ 学会発表等：

- ・信賀春輝・藤川昌樹「近・現代における鬼怒川温泉街及び旅館の変容とその背景」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 1-2、2019年9月
- ・高橋佑太郎・藤川昌樹「結城市における歴史的建造物の残存状況 結城市の歴史的建造物群に関する研究 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.829-830、2019年9月
- ・耿伊林・藤川昌樹「旧医院の建築的特徴 石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 831-832、2019年9月
- ・陳効亮・藤川昌樹「氏江商店の建築的特徴 石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究 その2」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 833-834、2019年9月
- ・シャキラアリミナ・藤川昌樹「石岡市内の茅葺き建築物の残存状況 石岡市における茅葺き建築物に関する基礎的研究 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.835-836、2019年9月
- ・齋藤創太・藤川昌樹「防災建築街区における共同ビルの形成と変容 北千住ときわ通り一帯を対象として」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 805-806、2019年9月
- ・徐暢・藤川昌樹「近代中国青島市における青島地所建物株式会社の不動産事業」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1005-1006、2019年9月
- ・宋宇辰・藤川昌樹「中国徐州地域における伝統的民家建築とその架構 戸部山集落余家大院・鄭家大院・翟家大院を例として」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 413-414、2019年9月
- ・余思奇・藤川昌樹「『五臺山碑文』からみた明代塔院寺の堂塔」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 417-418、2019年9月
- ・高屋麻里子・藤川昌樹「歴史地図のGIS利用 町割の変遷にみる江戸都市構造の成熟過程 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1015-1016、2019年9月
- ・李松竹・高屋麻里子・藤川昌樹「『六大区沽券地図』と『御府内往還其外沿革図書』の町割表現の比較 町割の変遷にみる江戸都市構造の成熟過程 その2」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.1017-1018、2019年9月

- ・梁美恵・高屋麻里子・藤川昌樹「江戸城下南側における武家地の敷地形状及び所持者の変化 町割の変遷にみる江戸都市構造の成熟過程 その3」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1019-1020、2019年9月
- ・王之然・高屋麻里子・藤川昌樹「大名下屋敷の立地と現状地形の標高分布との関係 町割の変遷に見る江戸都市構造の成熟過程 その4」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1021-1022、2019年9月
- ・秋葉正美・藤川昌樹「明治35年の真壁町の住居における前土間平面について ～「家屋台帳」による検討(その4)～」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1029-1030、2019年9月

◆ 講演ほか：

- ・「地域の文化財保存・活用の取り組み：茨城県での調査事例から」（藤川昌樹、茅採取文化財保存技術（伝承）研修会、日本茅葺き文化協会、伊勢屋旅館〔桜川市〕）2019年7月1日
- ・「石岡市旧市街地の町家-看板建築を中心に-」（藤川昌樹、「第5回石岡市文化財調査報告会」、石岡市教育委員会、常陸風土記の丘〔石岡市〕）2019年8月3日
- ・「幕末期京都の金沢藩邸」（藤川昌樹、「第3回武家地科研Ⅱ研究会」、筑波大学春日キャンパス）2019年9月15日
- ・「日本の町並み保存：重要伝統的建造物群保存地区を中心に」（藤川昌樹、「第24回中国民居建築国際会議」（招待講演）、中国鉱業大学〔中国江蘇省徐州市〕）2019年10月19日
- ・「石岡市内の茅葺き建築物の残存調査」（藤川昌樹、「いばらき茅葺き屋根の集い：家主・職人・サポーター交流会」やさと茅葺き屋根保存会、常陸風土記の丘〔石岡市〕）2019年10月19日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・社会工学域長・社会システム・マネジメント専攻長・社会工学専攻長・社会工学学位プログラムリーダー
 - ・社会工学専攻／社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - ・建築史学会編集委員長・常任委員
 - ・日本建築学会員
 - ・日本都市計画学会会員

◆ 学外から委嘱された委員

- ・ 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- ・ 茨城県まちづくりアドバイザー
- ・ 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・ 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・ つくば市都市景観審議会委員
- ・ 土浦市都市計画審議会会長
- ・ 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・ 茨城県景観審議会委員長
- ・ 土浦市文化財保護審議会委員
- ・ つくば市文化財保護審議会会長
- ・ 笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・ 石岡市景観調査委員会委員長
- ・ 下妻市庁舎建設検討市民会議座長
- ・ 茨城県文化財保護審議会委員
- ・ 結城市景観審議会委員長・景観アドバイザー
- ・ 文化庁文化審議会文化財分科会第二専門調査会委員
- ・ 結城市伝統的建造物群保存対策調査委員会委員長

氏 名	繆 瑩	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学		
専攻（博士前期課程）	社会工学		
担当学類	社会工学		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信・蓄積		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：微積分 II・III/離散数学 1 /情報ネットワーク/
大学院：情報セキュリティ
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会工学専攻（前期）0 人/社会工学専攻（後期）4 人/研究生 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研（B）「スパースな結合行列を持つ組合せ的構造の分析と構成」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
S. Luo, Y. Matsuura, Y. Miao, and M. Shigeno, Non-adaptive group testing on graphs with connectivity, J. Comb. Optim. 38 (2019), 278-291.
Y. Gu and Y. Miao, Union-intersection-bounded families and their applications, Discrete Appl. Math. 266 (2019), 346-354.
Y. Gu, M. Cheng, G. Kabatiansky, and Y. Miao, Probabilistic existence results for parent-identifying schemes, IEEE Trans. Inform. Theory 65 (2019), 6160-6170.
M. Shao and Y. Miao, On optimal weak algebraic manipulation detection codes and weighted external difference families, Des. Codes Cryptogr. 88 (2020), 1349-1369.
Y. Gu, J. Fan, and Y. Miao, Improved bounds for separable codes and B_2 codes, IEEE Commun. Letters (2020), 1349-1369.
H. Cai, Y. Miao, M. Schwartz, and X. Tang, On optimal locally repairable codes with multiple disjoint repair sets, IEEE Trans. Inform. Theory 66 (2020), 2402-2416.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
留学生委員会委員長

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類：入試実施委員

大学院：留学生支援委員会委員長/学生相談室委員/運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.

Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.

Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.

Editor: Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications, January 2017 - present.

Council member: Institute of Combinatorics and its Applications, April 2019 - present.

氏 名	村上 暁信	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	緑地計画，ランドスケープ・デザイン，都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画／都市計画マスタープラン策定実習／社会工学実習／都市環境評価論／現代まちづくりの理論と実践

大学院 Landscape Planning／ランドスケープ・デザイン・スタジオ／地域景観に関する記憶のデジタル・アーカイブ 1

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人／社会工学専攻（前期課程）7 人／社会工学専攻（博士後期）3 人／環境科学専攻 2 人／社会工学専攻（研究生）2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費 基盤（B）「津波で失われた景観の再現による記憶の抽出と日常生活に結びついた場の解析」（代表）
- 受託研究 三菱地所株式会社「大丸有地区丸ビル外構部及び丸の内仲通りにおける熱環境評価」（代表）
- 奨学寄附金 旭硝子財団「都市化によるライフスタイル・住民構成の変化を踏まえた環境的・社会的に快適な住空間の創出」（代表）
- 科学研究費 挑戦的萌芽「サイバープラットフォーム上の人データ解析によるエリア熱環境の客観的・複合的評価」（分担，代表：佐土原聡）
- 受託研究 石岡市「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

- Park, Chae Yeon・Lee, Dong Kun・Asawa, Takashi・Murakami, Akinobu・Kim, Ho Gul・Lee, Myung Kyoon・Lee, Ho Sang : Influence of urban form on the cooling effect of a small urban river. Landscape and Urban Planning, ELSEVIER SCIENCE BV, 183, 26-35, 2019 (査読あり)
- 中島遥希・村上暁信：周辺環境および立地環境の違いが保水性舗装の夏季気候緩和効

果に与える影響. ランドスケープ研究, 82(5), 645-650, 2019 (査読あり)

- 村上暁信・熊倉永子・高橋宏樹・宮城俊作・中大窪千晶: パッシブタウン黒部での熱環境シミュレーションを活かした設計プロセスと今後の課題. ランドスケープ研究(オンライン論文集), 12, 33-36, 2019 (査読あり)
- 植田直樹・西谷麟・村上暁信: 東京都心部における緑化に関する条例等の特徴に関する研究. 都市計画論文集, 54(3), 359-366, 2019 (査読あり)
- 劉旭・村上暁信: 震災時の帰宅行動と熱環境上のリスクに関する研究:もし 311 が発生したのが真夏だったら. 都市計画論文集, 54(3), 1066-1071, 2019 (査読あり)
- 村上暁信: 成長時代に作られたランドスケープ遺産の利活用・リハビリテーション・Re デザイン: 都市のみどりをいかにグリーンインフラ化していくか (2019 年度日本造園学会全国大会報告). ランドスケープ研究, 83 (3), 304-307, 2019 (査読なし)
- 村上暁信: 都市の緑は役に立っているのか. 日本ヒートアイランド学会誌, 14, 12-15, 2019 (査読なし)
- 村上暁信: 震災復興への支援と地域循環共生圏. 環境情報科学, 49(1), 108-109, 2020 (査読なし)
- 中島遥希・村上暁信: 屋外空間における温熱環境の違いが来訪者の空間利用に与える影響に関する研究. 環境情報科学, 49(1), 156, 2020 (査読なし)
- 手塚勇太・村上暁信: 移動観測によるつくばセンター周辺の気温分布図調査. 環境情報科学, 49(1), 158, 2020 (査読なし)
- 西谷麟・村上暁信: 緑化条例に基づいて計画・創出された緑の実態に関する研究. 環境情報科学, 49(1), 167, 2020 (査読なし)
- 高祖侑希・村上暁信: グリーンインフラストラクチャ整備による氾濫抑制効果の検証と整備の推進における課題に関する研究. 環境情報科学, 49(1), 171, 2020 (査読なし)

◆ 学会発表等:

- 蓮沼舜矢・村上暁信: つくば市における防風林の分布変化が周辺の風環境に与える影響. 2019 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, A-1, 2019
- 手塚勇太・村上暁信: 移動観測によるつくばセンター周辺の気温分布調査とヒートアイランド現象の把握. 2019 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, A-17, 2019
- 劉旭・村上暁信: もし 311 が発生したのが真夏だったらー震災後の帰宅行動と熱環境上のリスクに関する研究ー. 2019 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, A-26, 2019
- 中島遥希・王之然・梁美恵・シャキラアリミナ・陳効亮・関健・李昂・徐暢・佐久間東陽・高松花・仲村健・山本幸子・村上暁信・藤川昌樹: 大学と地域の連携による地域創生に向けた拠点づくりプロジェクトー石岡市八郷地区の茅葺古民家を核としてー. 2019 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, A-35, 2019

- 横山仁・村上暁信：平地林による農業気象災害の被害軽減事例. 2019 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, B-11, 2019
- 中島遥希・村上暁信：屋外空間における温熱環境の違いが来訪者の空間利用に与える影響に関する研究. 環境情報科学研究発表大会ポスターセッション, 2019
- 手塚勇太・村上暁信：移動観測によるつくばセンター周辺の気温分布図調査. 2019 年度環境情報科学研究発表大会ポスターセッション, 2019
- 西谷麟・村上暁信：緑化条例に基づいて計画・創出された緑の実態に関する研究. 2019 年度環境情報科学研究発表大会ポスターセッション, 2019
- 高祖佑希・村上暁信：グリーンインフラストラクチャ整備による氾濫抑制効果の検証と整備の推進における課題に関する研究. 2019 年度環境情報科学研究発表大会ポスターセッション, 2019
- ◆ その他：
 - 環境情報科学センター賞・技術開発賞受賞（村上暁信・熊倉永子・斉藤真里佳「津波で失われた景観のデジタル再現と記憶の抽出」）, 2019. 4
 - 2019 年度環境情報科学研究発表大会ポスターセッション 理事長賞 受賞（西谷麟・村上暁信：「緑化条例に基づいて計画・創出された緑の実態に関する研究」）, 2019. 11
 - 2019 年度環境情報科学研究発表大会ポスターセッション 学術委員長賞 受賞（中島遥希・村上暁信：「屋外空間における温熱環境の違いが来訪者の空間利用に与える影響に関する研究」）, 2019. 11
 - 村上暁信：総合司会, 2019 年度日本造園学会全国大会公開シンポジウム（成長時代に造られたランドスケープ遺産の利活用・リハビリテーション・Re デザイナー都市のみどりをいかにグリーンインフラ化していくかー）, 2019. 5. 25（茨城・筑波大学）
 - 村上暁信：講演「震災復興への支援と地域循環共生圏」, 2019 年度環境情報科学研究発表大会・一般公開シンポジウム「地域循環共生圏ーその創造に向けての環境科学研究の役割」, 2019. 11. 27（東京・日本大学）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学学群教育課程委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類カリキュラム委員長, 社会工学類将来設計WGメンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員：
 - 日本学術会議連携会員
 - 守谷市都市計画審議会委員

- 東京都港区緑と水の委員会委員
- 三鷹市景観審議会委員
- 山梨県都市計画マスタープラン委員会委員

◆ 学会活動：

- 日本造園学会学術委員会委員
- 日本都市計画学会国際委員会委員
- 環境情報科学センター理事
- 農村計画学会評議員

氏 名	吉瀬 章子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理最適化，オペレーションズ・リサーチ，サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法／社会と最適化
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／地域未来創生概論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計 23 名
システム情報工学研究科
社会工学専攻・社会工学学位プログラム 9 名
社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 7 名
理工学群社会工学類 7 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：数理最適化の理論と応用に関する研究を行った。理論に関しては錐最適化問題に対するアルゴリズムの開発とその検証，応用に関しては，数理最適化を用いたモビリティ・イノベーションあるいはサービス・イノベーションにおける事業分析などに取り組んだ。
- ◆ 科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」(代表)
- ◆ 科学研究費 挑戦的研究 (萌芽)「半正定値基を用いた錐最適化問題の近似解法の開発」(代表)
共同研究 (関彰商事株式会社)「ガソリンスタンドにおけるスタッフ最適配置編成アプリケーションの開発」(代表)
共同研究 (三菱自動車工業株式会社)「コネクティッドカーのサービス開発を目的とした走行データのデータクレンジング手法に係る研究」(代表)
共同研究 (トヨタ自動車株式会社)「オープンイノベーションによる地域社会システムと次世代自動車交通基盤の研究」(分担)
科学研究費 基盤研究 (B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」(分担)
科学研究費 基盤研究 (B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」(分担)

科学研究費 基盤研究 (C)「DC/DM 大域的最適化のための実用的なアルゴリズムの構築」
(分担)

◆ 著書・論文等：

- ◇ 汪玉柱, 吉瀬章子. 「SD 基に基づく半正定値行列錐の凸多面錐近似」, 統計数理研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」428(2020)pp.106-113. 査読無.
- ◇ 加納伸一, 吉瀬章子. 「QAP の半正定値緩和問題を解くためのセンタリング ADMM」, 統計数理研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」428(2020)pp.114-129. 査読無.
- ◇ Shin-ichi Kanoh and Akiko Yoshise. ``Centering ADMM for the semidefinite relaxation of the QAP,” Discussion Paper Series, Department of Policy and Planning Sciences, 1368(2020)pp.1-16, University of Tsukuba. 査読無.
- ◇ Yuzhu Wang, Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise. ``Polyhedral approximations of the semidefinite cone and their appication,” Discussion Paper Series, Department of Policy and Planning Sciences, 1359(2019)pp.1-20, University of Tsukuba. 査読無.

◆ 学会発表等：

- ◇ 山口大輔, 大原敬之, 近藤大祐, 廣田雄介, 吉瀬章子. 「ガソリンスタンドにおける多段階勤務スケジューリング作成モデルの改良」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会 2020, 奈良, 日本, 2020 年 3 月 12 日～13 日.
- ◇ 小市敦也, 吉瀬章子. 「モビリティシェアリングにおけるユーザーの利用実態を考慮したオペレーション最適化モデルの改善」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会 2020, 奈良, 日本, 2020 年 3 月 12 日～13 日.
- ◇ 小代圭祐, 本多里紗, 久富彩香, 黒田翔, 吉瀬章子. 「筑波大学の総合選抜入試導入に伴う専門導入科目の時間割作成」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会 2020, 奈良, 日本, 2020 年 3 月 12 日～13 日.
- ◇ 小代圭祐, 黒田翔, 吉瀬章子. 「総合選抜入試における専門導入科目の時間割スケジューリング」, SS2019, つくば, 日本, 2019 年 9 月 19 日～20 日.
- ◇ 汪玉柱, 吉瀬章子. 「SD 基に基づく半正定値行列錐の凸多面錐近似」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季発表会 2019, 広島, 日本, 2019 年 9 月 12 日～13 日.
- ◇ 張凱, 吉瀬章子. 「A strategic optimization model for one-way carsharing systems」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季発表会 2019, 広島, 日本, 2019 年 9 月 12 日～13 日.
- ◇ Yuzhu Wang, Shin-ichi Kanoh and Akiko Yoshise, “Two approaches for solving hard conic optimization problems,” NACA-ICOTA2019, Hakodate, Japan, August 26-31, 2019. (招待講

演)

- ◇ Yuzhu Wang and Akiko Yoshise, “Polyhedral approximations of the semidefinite cone and their applications,” NACA-ICOTA2019, Hakodate, Japan, August 26-31, 2019.
- ◇ Shin-ichi Kanoh and Akiko Yoshise, “A centering ADMM for SDP and its application to QAP,” ICCOPT2019, Berlin, Germany, August 5-8, 2019.
- ◇ Yuzhu Wang, Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, “Polyhedral approximations of the semidefinite cone and their applications,” ICCOPT2019, Berlin, Germany, August 5-8, 2019.

◆ その他：なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - (全学) 学長補佐
 - (全学) 研究推進会議委員, 保育施設委員会委員
 - (研究科) 研究科長特別補佐
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - (専攻) 地域未来創生教育コースリーダー, 予算委員長
 - (学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)
 - Numerical Algorithms, Editorial Board
 - Pacific Journal of Optimization, Editorial Board
 - SIAM Optimization 2020, Organizing Committee
 - 国際会議 ICOTA 2019 実行委員長
 - 日本オペレーションズ・リサーチ学会 フェロー議長
 - 日本オペレーションズ・リサーチ学会 数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
 - 日本学術会議 連携会員
 - 茨城県 情報通信事業者雇用促進事業者補助金審査会委員
 - 科学技術振興機構 竜ヶ崎第一高等学校 SSH 運営指導委員会 委員長

氏 名	渡辺 俊	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻・環境科学専攻（生命環境科学研究科）		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ
 - 大学院 空間情報科学／地域データ解析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人／社会システム工学専攻 4人／研究生 3人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 社会工学コモンズ・データバンクプロジェクト「iConstruction に向けた設計教育のための BIM 教材の開発」
- ◆ 著書・論文等：
 - 長谷川隼；渡辺，俊：歩行空間ネットワークを用いた駅周辺の回遊性に関する研究 ―埼玉
玉県大宮駅周辺を事例として―、第 42 回情報システム利用技術シンポジウム論文集、日
本建築学会、2019 年 12 月
 - 渡辺，俊：ル・コルビュジエが提示したモデュールによる羽目板遊びの探求、日本建築
学会計画系論文集/第 84 巻(第 766 号)/pp.2679-2686、2019 年 12 月
- ◆ 学会発表等：
 - 下重尚也；渡辺，俊：写真投稿ソーシャルメディアを用いた都市のアクティビティ分析、
2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会、2019 年 9 月
 - 長谷川隼；渡辺，俊：媒介中心性を用いた歩行者の回遊性の検討 鉄道駅周辺を対象として、
2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会、2019 年 9 月
 - 周韜；渡辺，俊：上海郊外地における Gated Community が飲食店への徒歩到達アクセシ
ビリティに与える影響、2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会、2019 年 9 月
 - 銭耀祖；渡辺，俊：城中村における人間活動と街路空間的特性に関する研究 白石洲を例と
して、2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会、2019 年 9 月
- ◆ その他：
 - 渡辺，俊：デジタルツインに向けて ―建築学は復権できるか―、建築・都市分野の VR・

MR 技術の展望 研究協議会資料、2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会、2019 年 9 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系技術室長
教育社会連携推進室長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 コンピュータ委員
社会工学類 入試実施委員、コンピュータ委員、1 年担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本建築学会学術推進委員会委員
日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員長
日本建築学会デザイン数理知能研究小委員会委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウムWG 委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG 委員
国土交通省建築 BIM 推進会議委員
他

氏 名	渡邊 真一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	国際総合学類		
研究分野	産業・組織心理学、組織行動論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：産業・組織心理学、行動調査法、組織行動論

◆ 指導学生数：

学類 0 名（国際総合学類生）

社会工学専攻前期博士課程 2 名

社会工学専攻後期博士課程 3 名

2. 研究

Watanabe, S., & Kanazawa, Y. (in press). Trust building in the globalizing workplace of Japan. In C.T. Kwantes & B.C.H. Kuo (Eds.) (in press). *Trust and Trustworthiness across Cultures: Implications for Societies and Workplaces*. In S. Glazer & C.T. Kwantes (Series Eds.), Springer Series in Emerging Cultural Perspectives in Work, Organizational, and Personnel Studies. Cham, Switzerland: Springer.

Kanazawa, Y., Kwantes, C., & Watanabe, S. (2019). Examining Trustworthiness in Canadian and Japanese Cultural Context: How to quantify the distance between two groups, each consisting of 3-dimensionally estimated objects?, Workshop on likelihood and Bayesian Method, Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University (March 8).

Kanazawa, Y., Kwantes, C., & Watanabe, S. (2019). Examining Trustworthiness in Canadian and Japanese Cultural Context: Grouping by K-means clustering or Chinese restaurant process Bayesian nonparametric mixture modeling?, Twentieth Annual Meeting of Nonparametric Statistical Analysis and Bayesian Statistics, International Christian University (March 27).

Watanabe, S., Chouchane, H.M., & Kanazawa, Y. (2019). On intercultural adaptive dissonance and effort: Do you fake it until you make it, or fake it until the sojourn is over? *Association for Psychological Science 31st Convention, May 26, Washington D.C., USA*. (<https://www.psychologicalscience.org/conventions/archive/2019-2>)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
図書委員会（全学）

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 運営委員会委員
予算委員会（国際総合学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Cornell University Admissions Amabassodor Association Network 日本支部委員
『経営行動科学』機関誌編集委員長

氏 名	雨宮 護	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市・地域・環境を探究 I／住環境環境概論／都市計画情報実習／現代まちづくり論／地球規模課題基礎実習／地球規模課題基礎演習／都市計画入門／都市・地域・環境を探究 III／住環境計画実習／都市計画事例講義／都市数理

大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム・ファシリテーター育成プレプログラム（「多文化共生のためのコミュニティガーデンの計画と運営」）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 人／社会工学専攻（前期）7 人／社会工学専攻（後期）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「警察の情報発信における「信頼」－行動科学・倫理学・政策科学からの学際的問題解決」（代表：島田貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長），分担研究者，2019 年度～2022 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究」（代表：鈴木勉（筑波大学システム情報系教授），分担研究者，2019 年度～2021 年度）
3. 日英研究協力グラント（ESRC-AHRC UK-Japan SSH Connections grants）「日英における警察ボランティアの比較研究（Exploring Synergies within Volunteering in Law Enforcement and Public Safety in the UK and Japan: Case for Support）」，協力研究者（2019 年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦萌芽）「集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案」（代表：樋野公宏（東京大学工学系研究科准教授），分担研究者（2018 年度～2020 年度）
5. 株式会社プレイスメイキング研究所「プレイスメイキング手法による住宅地への農作物栽培サービスの提供の実証実験」，2018 年度～2019 年度

6. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理的犯罪予測の手法構築：学際研究と産官学連携による学術基盤の確立とシステム開発」，研究代表者（2017 年度～2020 年度）
7. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「高齢化・人口減少時代の近隣レベルの犯罪統制：主体間の効果的連携に向けて」（代表：小林寿一（科学警察研究所犯罪行動科学部長）），分担研究者（2017 年度～2019 年度）

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

1. 大山智也・雨宮護（2019）ATM における還付金等詐欺の発生予測：ATM の設置環境と犯罪の反復性に着目して，都市計画論文集，54 巻 3 号，pp.780-787.
2. 島ノ江彩加・雨宮護（2019）街頭カメラの画像活用に対する市民の受容の構造，都市計画論文集，54 巻 3 号，pp.750-757.
3. 橋村ちひろ・雨宮護・畑倫子・島田貴仁（2019）保護者による子どもに対する行動規制と地域要因との関連，都市計画論文集，54 巻 3 号，pp.421-428.
4. Mamoru Amemiya and Tomoya Ohyama (2019) Toward a test of the “Law of Crime Concentration” in Japanese cities: a geographical crime analysis in Tokyo and Osaka, *Crime Science*, 8, 11. doi:10.1186/s40163-019-0106-z (Short Contribution) (CiteScore=2.48; SNIP=1.479; SJR=1.323 in 2019)
5. 山村俊貴・樋野公宏・上杉昌也・雨宮護（2019）東京都区部における性犯罪の前兆事案と街路ネットワークの関係：Urban Network Analysis 指標に着目して，GIS 理論と応用，27 巻 1 号，pp.33-42.

（総説・報告）

（審査のない雑誌論文・紀要）

1. 浅野翔・雨宮護・大山智也（2019）犯罪の「慢性的集中地区」の分布と特徴 一時空間ホットスポット分析を用いて，地理情報システム学会講演論文集，28，CD-ROM

◆ 学会発表等：

1. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2019) Crime prediction of street harassment for women and children, Poster Session, ASC Annual meeting 2019, San Francisco, CA, November 13-16.
2. 雨宮護・米今絢一郎（2019）歩行者ナビゲーションが利用者の都市空間要素の認知に与える影響：親切過ぎるスマホナビは人とまちとの関わりを阻害するか？，第 28 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション，徳島大学，2019.10.19-2019.10.20
3. 谷真如・雨宮護（2019）刑務所出所者の居住地域の空間的分布と再犯への影響，第 28 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション，徳島大学，

2019.10.19-2019.10.20

4. 浅野翔・雨宮護・大山智也 (2019) 犯罪の「慢性的集中地区」の分布と特徴 ―時空間ホットスポット分析を用いて―, 第 28 回地理情報システム学会研究発表大会, 徳島大学, 2019.10.19-2018.10.20 (梗概: 地理情報システム学会講演論文集, 28, CD-ROM)
5. Naomi Shimpō and Mamoru Amemiya (2019) Learning how to create multicultural landscapes in Japan: an intercultural garden project as an educational workshop, ECLAS UNISCAPE CONFERENCE 2019, Norwegian University of Life Sciences, Norway, September 16-17
6. 大山智也・雨宮護 (2019) 短期的・長期的リスクを考慮した脅威事案の発生予測手法, 日本犯罪心理学会第 57 回大会, 口頭発表, 日本女子大学目白キャンパス, 2019.8.31
7. 谷真如・雨宮護 (2019) 刑務所出所者の居住地域の環境要因が再犯に与える影響の検討, 日本犯罪心理学会第 57 回大会, ポスター発表, 日本女子大学目白キャンパス, 2019.9.1
8. 讃井知・雨宮護 (2019) 高齢者の犯罪被害を防ぐ共助を促進する情報の活用方策, 日本犯罪心理学会第 57 回大会, ポスター発表, 日本女子大学目白キャンパス, 2019.9.1
9. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2019) Crime Prediction of Street Harassment, Poster Session, Satellite Conference of The 62nd World Statistics Congress—Data Science, Statistics and Visualization 2019—, Kyoto, Japan, August 13-15. (Abstract: <https://dssv2019.ywebsys.net/bookofabstracts.pdf>)
10. 新保奈穂美・雨宮護 (2019) 大学における多文化共生ガーデンの効果と運営課題: 筑波大学ミューズガーデンでの実践報告, 日本造園学会全国大会ポスターセッション, 筑波大学, 2019.05.25
11. 松本奈々・雨宮護・温井達也・野末琢二 (2019) 郊外住宅地における住環境マネジメントを通じた農活動の提案と試行, 日本造園学会全国大会ポスターセッション, 筑波大学, 2019.05.25
12. Mamoru Amemiya (2019) Testing the “Law of Crime Concentration” in Japanese Cities: A geographical crime analysis of Tokyo and Osaka, Poster Session, AAG2019, Washington DC, April 3-7.

- ◆ その他:
 - 著書
 - 報告書

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

1. システム情報工学研究科広報委員
2. 大学の世界展開力強化事業（中南米との大学間交流形成支援）プログラム実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. 大学院社会工学専攻広報委員
2. 社会工学類広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

（学会活動）

1. 日本都市計画学会社会連携委員会研究交流事業「実務と研究の連携のための研究会」メンバー（2017 年度～）
2. 日本都市計画学会「会長アドバイザー会議」委員（2017 年度～）
3. 日本都市計画学会社会連携委員会委員（2016 年度～）
4. 日本都市計画学会査読委員（2008 年度～2010 年度，2014 年度～）
5. 日本造園学会全国大会運営委員（2018 年度～）
6. 日本造園学会論文集委員会委員（2017 年度～（2017 年度～2018 年度幹事，2019 年度テーブル幹事））
7. 日本造園学会総務委員会委員（2011 年度～2012 年度，2017 年度～）
8. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員（2007 年度～）
9. 日本環境心理学会運営委員会委員（2017 年度～）

（学外組織からの委嘱委員等）

1. 牛久市「都市計画審議会」副会長（2019 年度～）
2. 守谷市「景観審議会」委員（2019 年度～）
3. 北区「景観審議会」委員（2017 年度～）
4. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」（2017 年度～）
5. 市川市「空家等対策協議会」委員（2017 年度～）
6. 八潮市「都市計画審議会」委員（2017 年度～）
7. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員（2017 年度～）
8. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016 年度～）
9. つくば市「都市計画審議会」委員（2016 年度～）
10. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015 年度～）
11. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015 年度～）

（一般向け招待講演）

1. 雨宮護（2019）（パネラー），足立区「みんなで育もう！子どもたちの安全と安心シンポジウム」，足立区役所庁舎ホール，2019.11.1

氏 名	安東弘泰	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 情報技術実験／社会工学専門英語／数学リテラシー 2／微積分 1

大学院：社会工学のための数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名 社会工学専攻：5名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

オンデマンド膵臓刺激による 2 型糖尿病のデジタルコントロールの数理, JSPS 科研費基盤研究(C) [代表]

AI 計算リソースとしての実交通ダイナミクスの活用技術の開発, JST 未来社会創造事業[代表]

◆ 著書・論文等：

<査読付き国際誌 or 国際会議論文>

1. S. Baek, H. Ando, T. Hikiyara, Consensus-based distribution of power packets and decentralized control for routing, AIP Chaos, Vol. 30, 033115, March 2020.
2. H.Chang, H. Ando, Privacy Preserving Data Sharing by Integrating Perturbed Distance Matrices, The AAAI Workshop on Privacy-Preserving Artificial Intelligence @AAAI-20, 8 pages, NY, USA, Feb. 7, 2020
3. A. Nakamura, T. Phung-Duc, and H. Ando, Queueing Analysis for a Mixed Model of Carsharing and Ridesharing, The 25th International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications ASMTA-2019, Moscow, Russia, October 23 — 25, 2019 (to appear in Lecture Notes in Computer Science).
4. H.Chang, H. Ando, Y. Kobayashi, Causal Effect Estimation Dealing with Latent Non-Gaussian Confounders, Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2019 (NOLTA2019), pp.36-37, Kuala Lumpur, Malaysia, December 2-6, 2019
5. S. Nakaoka, H. Ando, Dynamical Effect of Syntrophic Association on a Bacterial

Community Composition, Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2019 (NOLTA2019), pp.119-122, Kuala Lumpur, Malaysia, December 2-6, 2019

6. K. Kawawa, H. Ando, A Simulation Study of Energy Propagation in Bio-Mimetic Networks, Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2019 (NOLTA2019), pp.123-126, Kuala Lumpur, Malaysia, December 2-6, 2019
7. S. Baek, H. Ando, T. Hikihara, Power Packet Distribution Problem on Switching Topology with Demanding Nodes Through Consensus-Based Approach, Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2019 (NOLTA2019), pp.177-178, Kuala Lumpur, Malaysia, December 2-6, 2019

<査読なし論文>

8. 安東 弘泰; 高原 勇; 大澤 義明, 大学を拠点とするモビリティサービス, オペレーションズ・リサーチ(8月)/pp.447-452, 2019
9. H. Ando, H. Chang, Road traffic reservoir computing, arXiv:1912.00554 [cs.ET]

◆ 学会発表等:

10. 張 瀚天・中岡慎治・安東弘泰, エコーステートネットワークの予測能力に関する活性化関数の影響, 複雑コミュニケーションサイエンス研究会, 電子情報通信学会 技術研究報告 vol. 119, no. 157, CCS2019-23, pp. 27-30, 北海道 2019 年 8 月.
11. 中村 彩音, フンドック トゥアン, 安東 弘泰, 待ち行列理論を用いたカーシェアリングとライドシェアリングの混合モデルに関する検討, pp. 268-269
12. 中村 彩音, Phung-Duc Tuan, 安東 弘泰, 待ち行列理論を用いたカーシェアリングとライドシェアリングの混合モデル, 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 pp. 98-107
13. 下津大輔, 太田和志, ソルステインソン慧グンナル, 橋村ちひろ, 加古捺巳, 辻本隆宏, 野口宇宙, 安東弘泰, 大澤義明, レゴブロックを用いた地域交通課題解決の提言 -つくば市及び北海道道北部を対象に-, 第 17 回 ITS シンポジウム 2019, 6pages.
14. 安東弘泰, 小林幹, システムに対するリザーバ計算の予測性能評価, 第 62 回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 札幌, 2019 年 11 月 8~10 日.
15. 小林幹, 安東弘泰, 時間遅れフィードバック法を用いたポテンシャル中のブラウン運動の制御, 第 62 回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 札幌, 2019 年 11 月 8~10 日.

<招待講演>

16. 安東弘泰, IoT 車両情報を活用した事前燃費予測の検討, 第 33 回応用地域学会

(ARSC) 研究発表大会, 佐賀, 2019 年 11 月 23 日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
次期全学計算機システム検討 WG

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
コンピュータ委員（社会工学類、社会工学専攻）
マッチング委員（社会工学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 教員免許状更新講習担当

氏 名	上市 秀雄	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／戦略行動システム演習
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 社会工学専攻博士前期課程 7名
 - 社会工学専攻博士後期課程 2名
 - 研究生 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
科研費補助金
 - 基盤研究（B）（研究分担者）
 - 過剰接客サービス存在時の IT 活用—小売業での RFID 動線を対象として—
 - 基盤研究（C）（研究分担者）
 - 慢性ストレスが生体リズムに影響を与えるまでのタイムラグの検討
- ◆ 著書・論文等：
 1. 上市秀雄(2019).
 - 「消費者の購買意思決定過程（第3章）」
 - 産業・組織心理学編「産業・組織心理学講座 第5巻 消費者行動の心理学」.
 - 北大路書房.
 2. 上市秀雄(印刷中).
 - 「意思決定における後悔のもつ適応的機能」
 - 応用心理学会編「応用心理学ハンドブック」福村出版.
 3. 讃井知・上市秀雄（2019）.
 - 一般市民の更生支援に対する認知および参加意向の向上にむけた検討
 - 更生保護学研究. 15, 55-65.

◆ 学会発表等：

1. Shuto, M., Kim, Y., Ouchi, K., Ueichi, H., Nnadi, C., Perez, G., Larson, H., & Sasaki, S. (2019).

Understanding confidence in human papillomavirus vaccine in Japan
: A web-based questionnaire survey of mothers, female adolescents,
and health care professionals.

European Research Organisation on Genital Infection and Neoplasia 2019
(EUROGIN2019) (Monaco), P05-2.

2. 上市秀雄・謝婧雅 (2019).

HPV ワクチン接種行動意図に影響を及ぼす認知・感情的要因
日本心理学会第 82 回大会発表論文集. 2AM-065.

3. 讃井知・上市秀雄 (2019).

加害者の処遇に対する有効性認知と更生支援活動参加意向の関係
日本社会心理学会第 60 回大会発表論文集. 01403.

4. 石渡崇晶・上市秀雄 (2019).

店頭販売員における適応的熟達を果たす接客業務の質的分析
: 販売員・顧客の特性と周囲の状況要因に着目して
産業・組織心理学会第 35 回大会発表論文集. P08.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院入試実施委員、論文委員、卒論梗概集委員長、学類 4 年クラス担当

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

取材協力：読売新聞 2020 年 3 月 9 日朝刊。医療ルネッサンス 新型コロナウイルス Q&A

氏 名	梅本 通孝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 地域科学演習/都市計画事例講義および実習
 - 大学院： リスク工学基礎/都市リスク分析演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人/リスク工学専攻(前期) 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 上海市民の水害防災行動の促進策に関する研究
 - 河川氾濫時の広域避難効果に関する研究
 - 被災地における非物的支援に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - 濱中理紗子, 梅本通孝：防災カードゲームを用いたリスクコミュニケーションが市民の防災行動に及ぼす効果—参加者への追跡調査に基づく検討—, 地域安全学会論文集, No.35, pp.207-215, 2019.11
 - 齋藤貴史, 糸井川栄一, 梅本通孝：地震時の自治会活動パフォーマンス評価—地区防災計画を策定した自治会を対象として—, 地域安全学会論文集, No.35, pp.37-47, 2019.11
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報工学研究科 入試実施委員会 委員
 - システム情報工学研究科 大学院入試募集要項 web ページ見直し WG メンバー
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 入試実施委員会 委員

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 委員長
リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 コアメンバー
リスク工学専攻 卓越大学院 PG 申請 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

地域安全学会 理事

日本都市計画学会学術委員会 委員

日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員

地域安全学会論文集 査読者

Urban and Regional Planning Review 誌 査読者

日本自然災害学会誌 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

鳥取県原子力安全顧問

茨城県江戸崎地方衛生土木組合ごみ処理施設事業者選定委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

◆ 講演等

梅本通孝：学校防災＋教育は一生モノ－事例と手がかり－，茨城県防災教育指導者研修会，水戸市，2019.6.27

梅本通孝：カードゲーム「アレがない！どうする？」，茨城県立守谷高校防災ワークショップ，守谷市，2019.7.22

氏 名	大久保 正勝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習
 - 大学院 資産評価論

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金 基盤研究（C）「モデル不確実性と経済厚生の国際比較分析」（研究代表者）
 - 筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用」（サポートメンバー）
- ◆ 著書・論文等：
 - Okubo, Masakatsu (2019), “International Evidence on Welfare Gains from Eliminating Model Uncertainty,” unpublished manuscript, University of Tsukuba.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類カリキュラム委員
 - 大学院カリキュラム委員
 - 理工学群社会工学類長選挙管理委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動： なし

氏 名	太田 充	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学，地域科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング入門

大学院 地域科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人／社会工学専攻 8 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

「テレコミュニケーション技術と均衡都市形状」、「都市における環境リスクの軽減の経済効果」に関する研究および外部資金獲得申請を中心に活動を行った

◆ 著書・論文等：

■査読付き原著論文

Hyacinthe, KOUASSI Kouakou, Hettiarachchi, Chamara, Armand, N'DA Kouadio, and Mitsuru Ota, (2020), "Implications of urbanization and Impact of Population Growth on Abidjan City, Cote d'Ivoire", African Journal on Land Policy and Geospatial Sciences, 245-255.

◆ 学会発表等：

太田 充, "Telecommuting technologies and equilibrium urban structure: Why the world is not becoming flat?", 第 33 回 ARSC 研究発表大会, 2019-11-23-2019-11-24, 佐賀大学

Ota, Mitsuru, "Telecommuting technologies and equilibrium urban structure", 66th North American Meetings of the Regional Science Association International, 2019-11-13 - 2019-11-16, ピッツバーグ, アメリカ合衆国

太田 充, "Telecommuting technologies and equilibrium urban structure", The Urban Economics Workshop, 2019-4-19, 東京大学

◆ その他：

無し

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 学生担当教員

全学 学園祭委員

理工学群 ESCAT・寺子屋塾実行委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類学生担当教員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：都市住宅学会理事、都市住宅学会総務企画委員会委員長

氏 名	岡田 幸彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	会計学、サービス工学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学演習/会計と経営/マネジメント演習/社工英語

大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講 1
（スポーツウエルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講 2（スポーツウエルネス学位プログラム）

学外：サービス（無形資産）会計（京都大学経営管理大学院）

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人/サービス工学学位プログラム（修士）14 人/社会工学学位プログラム（修士）1 人/社会工学学位プログラム（博士）4 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学人工知能科学センター 人工知能基盤研究部門 サービス工学分野長
- ・統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 客員准教授
- ・2019 年度 AMED 委託事業「自治体における保健指導の施策力に応じた最適な保健指導モデルを提示できる AI の開発研究」（副代表、2,200 万円/年）
- ・2019 年度 NEDO 委託事業「データコラボレーション解析による生産性向上を目指した次世代人工知能技術の研究開発」（中核研究者）

◆ 著書・論文等：

1. 岡田幸彦・山矢和樹 (2019)「サービス原価企画力の源泉と効果に関する実証分析」『会計』196(4), 69-83. (招待研究論文)
2. Bach Q. Ho, Y. Murae, T. Hara and Y. Okada (2019) “Consumer Experience as Suppliers on Value Co-Creation Behavior,” *Journal of Serviceology*, 4(1), 1-7. (査読有)
3. 生方裕一・黒木淳・岡田幸彦 (2019)「資産老朽化情報が予算要求額に与える影響—自治体職員への質問紙実験から—」『会計プロGRESS』20, 47-61. (査読有)
4. Morimitsu T., H. Kataoka and Y. Okada (2020) “The Unified Product Costing System for Multiple Purposes: Case Evidence from a Japanese Electric

- Manufacturer,” Proceedings of the 2020 MAS Midyear Meeting, January, U.S., 1-16. (poster) (査読有)
5. Funasaki K., Y. Takahashi and Y. Okada (2019) “An Applicability of the SPLISS Model to National Sport Organization,” Proceedings of Sport Management Association of Australia and New Zealand, 1. (oral) (査読有)
 6. Sasaki K., R. Shin, S. Kuno and Y. Okada (2019) “Applications of Bayesian Network Models in Predicting Disease Onset for Health Insurance Service,” Proceedings of NOLTA 2019, December, Malaysia, 1-4. (oral) (査読有)
 7. Arai T., Y. Chida, Y. Okada and Keiichi Zempo (2019) “Sensor Network to Measure MAAI on Value Co-Creation Process: Feasibility Study of MAAI Optimization on Customer Service,” Adjunct Proceedings of the 2019 ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing (UbiComp), September, U.K., 1-4. (poster) (査読有)
 8. Hideyama S., P.D. Tuan and Y. Okada (2019) “Queueing Analysis of Home Delivery Services with Parcel Lockers,” Lecture Notes in Computer Science (QTNA2019 LNCS Proceedings), August, Belgium, 351-368. (oral) (査読有)
 9. Nakai A., B. Ho, T. Hara and Y. Okada (2019) “Effects of Customer’s Actorship in the Service System: Evidence from Home Delivery Service in Japan,” Proceedings of 10th International Research Symposium in Service Management, August, Dubai, 1-11. (oral, Highly Commended Award) (査読有)
 10. Murai R., R. Miyamoto, K. Yamamoto and Y. Okada (2019) “Numerical Experiments of Bridge Position Estimation for On-Going Monitoring,” Proceedings of World Congress on Engineering 2019, July, U.K., 1-4. (oral, Best Student Paper Award) (査読有)
 11. 岡田幸彦 (2019) 「「サービス工学×AI」と品質向上：筑波大学の経験から」『品質』49(3), 204-209. (招待学術論壇)
 12. 佐々木健佑・久野譜也・岡田幸彦 (2019) 「ベイジアンネットワークによる地域健康予測」『オペレーションズ・リサーチ』64(7), 399-405. (特集・招待学術論壇)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 教育イニシアティブ機構会議 構成員
 - 教育企画室 室員
 - 理工学群広報委員会 委員
 - 人工知能科学センター運営委員会 委員
 - 筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類広報委員会 委員長
大学院社会工学専攻広報委員会 委員長
S F T 検討委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・ サービス学会 理事（無報酬）
 - ・ インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員（無報酬）
 - ・ 公益財団法人清国奨学会 理事（工学系学生への奨学事業、非常勤、無報酬）
 - ・ 水戸信用金庫 理事（非常勤、報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
 - ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員（無報酬）
 - ・ 常総市 財務アドバイザー（無報酬）
 - ・ つくば市指定管理者選定委員会 委員（報酬有）

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	国際総合学類（専任）、社会工学類（兼担）		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学Ⅳ（専門導入科目）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）

大学院 経済・政策分析（社会工学専攻）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 5人/社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究（C）「環境・エネルギーに関する多次元貧困指標の開発と政策分析」（代表）

科研費基盤研究（B）「放射性廃棄物処分問題に関する社会科学的総合研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

“Engendering an inclusive low-carbon energy transition in Japan: Considering the perspectives and awareness of the energy poor”（共著）*Energy Policy*, 135, December 2019, 111017.

“Understanding Regional Energy Poverty in Japan: A Direct Measurement Approach”（単著）*Energy and Buildings* (VSI: Energy Poverty Varieties), 193, June 2019, pp. 174-184.

◆ 学会発表等：

「全国市区町村の再生可能エネルギー施策の効果分析」（共同発表）環境経済・政策学会2019年大会（於：福島大学）、2019年9月28日.

“Energy Poverty and Energy Inequality in Japan: A Direct Measurement Approach”
The 16th European Conference of the International Association for Energy Economics,

University of Ljubljana, Ljubljana, Slovenia, August 27, 2019.

“Energy Poverty and Just Energy Transition in Japan” (招待講演) The Third Asian Energy Conference: Diversity in Urban Energy Transitions in Asia: Trajectories, Governance and Policy Innovations, Asian Energy Studies Center, Hong Kong Baptist University, Hong Kong, July 3, 2019.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
シス情・数理・茨城高専連携委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
国際総合学類運営委員
国際総合学類カリキュラム委員
国際総合学類シス情 TA 担当委員
大学院専攻修士論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University
日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

氏 名	甲斐田直子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境経済学、環境心理学、環境配慮行動分析、環境意思決定、持続性		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市環境評価論／都市計画実習／社会調査実習

大学院 環境政策概論／Introduction to Environmental Policy

◆ 指導学生数：

社会工学類 5名

社会工学専攻博士前期課程 1名

社会工学専攻博士後期課程 1名

環境科学専攻 5名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費（若手研究 A）「価値観に根ざした環境配慮行動の提案：東洋・西洋社会における横断・縦断研究」（代表）

科学研究費補助金（基盤 A）「分布型水土流出モデルの長期解析に基づく流木被害軽減のための森林管理手法の検討」（分担）

国際協力機構草の根技術協力事業「宗教的信念に寄り添った食品廃棄物減量プログラムの実践」（代表（プロジェクトマネージャー））

◆ 著書・論文等：

Kaida, N., & Kaida, K. (2019). Positive associations of optimism-pessimism orientation with pro-environmental behavior and subjective well-being: a longitudinal study on quality of life and everyday behavior. *Quality of Life Research*, 28(12), 3323-3332. ※IF2.488.

増田祐太郎, & 甲斐田直子. (2019). 防災行動の負担感が行動実践に与える影響. *土木学会論文集 D3 (土木計画学)*, 75(5), I_109-I_116.

Zamri, G. B., Azizal, N. K. A., Nakamura, S., Okada, K., Nordin, N. H., Othman, N., Akhir, F.N.MD., Sobian, A., Kaida, N., & Hara, H. (2020). Delivery, impact and

approach of household food waste reduction campaigns. *Journal of Cleaner Production*, 246, 118969. ※①IF6.395, ②CiteScore Top4%, SJR1.620, SNIP2.308.

◆ 学会発表等：

Xu, X., Liu, X., & Kaida, N. (2019). Psychological barriers to engaging in energy conservation: A comparative study on Chinese and Japanese consumers. The 25th International Sustainable Development Research Society Conference, June 2019, Nanjing.

Liu, X., Kaida, N., Geng, L., Liu, T., & Lin, Y. (2019). Influence of social media on waste reduction attitudes and behavior: An experimental intervention study on Chinese university students. The 25th International Sustainable Development Research Society Conference, June 2019, Nanjing.

Kaida, N., Takane, M., & Yue, S. (2019). Descriptive or injunctive norms? An experimental intervention on label separation from plastic bottles in a Japanese university campus. International Conference on Environmental Psychology, September 2019, Plymouth.

Kaida, N., & Kaida, K. (2019). Optimistic orientation facilitates pro-environmental behavior: A longitudinal study on quality of life and everyday behavior. International Conference on Environmental Psychology, September 2019, Plymouth.

Liu, X., & Kaida, N. (2019). Facilitating Waste Reduction Through Social Media in China: An Experimental Study on Implicit and Explicit Attitudes and Behaviors. 日本心理学会第 83 回大会，立命館大学，2019 年 9 月。

田宮日奈・甲斐田直子（2020）．地域に根差した記憶の誘発が地域愛着に及ぼす影響，日本環境心理学会，北海道大学，2020 年 2 月。

◆ その他：

Radio IKIM Malaysia, “Addressing the Issue of Food Waste Management: A Dialogue between Cultures” 出演（2019 年 4 月）

オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」市民協働型温暖化対策実行計画推進研究会「環境心理学に基づく温暖化対策の立案」講演（2019 年 10 月）

Bername TV Channel Malaysia, “Ruang Bicara: Projek Pengurangan Sisa Makanan (Discussion Room: Food Waste Reduction Project)” 出演（2020 年 1 月）

‘Eat Smart, Save Food’ programme cuts food waste by 43pct, *New Straits Times*, February 23, 2020.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
JUC 防災小委員会事務局（マレーシア日本国際工科院に新設予定の防災修士プログラムに
対する日本国内支援大学コンソーシアム内小委員会）
筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類：学生支援委員会
社会工学専攻：留学生支援委員会、学生相談室
環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、MJIIT 国際共同学位プロ
グラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
茨城県環境審議会委員（廃棄物小委員会副委員長）
茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員
茨城県鹿島市立平井小学校学校地域防災力強化委員会
かすみがうら市廃棄物減量等審議会委員長

氏 名	作道真理	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	応用計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 線形代数 1/公共システム演習/実証ミクロ経済学
大学院 ミクロ計量経済学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1 人
社会工学専攻 5 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
社会的責任活動の実証研究：企業のミクロ経済学的行動と政策分析
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
国際戦略会議委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類入試，担任 1 年生，新入生オリエンテーション，
数理・教育 D S 運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Global Finance Journal, Editorial board member
東京経済研究センター 理事

氏 名	澤 亮治	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 社会工学実習/ゲーム論/経済学入門Ⅰ

大学院： ゲーム理論/行動・実験経済学

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人/社会工学学位（前期） 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「社会選択問題への進化ゲーム理論的アプローチ」（代表） 課題番号：18K12740

◆ 著書・論文等：

Sawa, Ryoji, and Dai Zusai, “Evolutionary dynamics in multitasking environments”, *Journal of Economic Behavior & Organization* 166, pp.288-308, 2019

畠山 卓, 澤 亮治: 複利型強化学習を用いたポートフォリオ選択手法についての研究, 情報処理学会論文誌, Vol.60, No.10, pp.1631-1640, 2019 年 10 月

◆ 学会発表等：

国際会議発表, Sawa, R., “A Stochastic Stability Analysis with Observation Errors in Normal Form Games”, *Econometric Society European Meeting*, Manchester, UK, August 26-30, 2019

国内会議発表, Sawa, R., “A Stochastic Stability Analysis with Observation Errors in Normal Form Games”, 日本経済学会 2019 年度春季大会（武蔵大学）, 2019 年 6 月 8-9 日

国内ワークショップ発表, Sawa, R., “A Stochastic Stability Analysis with Observation Errors in Normal Form Games”, 数理経済学会研究集会「数理経済学とその周辺」, 2019 年 11 月 2 日

国内ワークショップ発表, Okada, A. and R. Sawa, “The Evolution of Collective Choice under Majority Rules”, 日本オペレーションズ・リサーチ学会第 284 回待ち行列研究部会, 2019 年 11 月 16 日

招待セミナー発表, R. Sawa, “A Stochastic Stability Analysis with Observation Errors

in Normal Form Games” , 東京理科大学, 2019 年 6 月 28 日

招待セミナー発表, R. Sawa, “A Stochastic Stability Analysis with Observation Errors in Normal Form Games” , 京都大学, 2019 年 9 月 19 日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学返還免除選考検討委員会
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻予算委員会委員
社会工学専攻カリキュラム委員会委員
社会工学類予算委員会委員
社会工学類卒研配属マッチング委員会委員
社会工学類 2 年生担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
茨城県立土浦第二高等学校ワンデーカレッジ 出前講義「恋の市場を設計する：ゲーム理論による新経済学」
筑波大学付属高校 2 年生大学訪問模擬授業「社会制度の設計」

氏 名	TURNBULL Stephen John	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	ゲーム論、数理経済学、ネットワーク経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 社会工学のための英語／経済動学
 - 大学院 社会工学のための数学
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - 社会工学専攻 11人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 挑戦的研究(萌芽) 代表 Applications of Category Theory to Games and Economic Behavior
- ◆ 著書・論文等：
 - YOSHIDA, Masatoshi and TURNBULL, Stephen J. [2019] “Optimal provision of public intermediate goods with imperfect competition: A note.” *International Journal of Economic Theory* **15**:2, June, pp. 209-222.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類／域コンピューター委員、留学生支援委員、学生相談員、クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 米防衛省教育企画（DoDEA）STEMinar グループリーダーと発表会司会

氏 名	高野 祐一	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化、金融工学、機械学習		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 ファイナンス／問題発見と解決／数理工学モデル化演習／社会と最適化／社工専門英語

大学院 資産評価論

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人

社会工学専攻 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 若手研究（B）「混合整数最適化を用いた制約付き変数選択による高精度パラメータ推定」（代表）
2. 科学研究費 挑戦的研究（開拓）「走行税課金による道路インフラ維持管理－EV化と車両認証のデジタル時代を迎えて－」（分担）
3. 科学研究費 基盤研究（B）「ロバストなデータ解析のための最適化モデリングの深化」（分担）
4. 科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」（分担）
5. 科学研究費 基盤研究（A）「機械学習システムの社会実装に向けた次世代最適化技法の研究」（分担）
6. 科学研究費 基盤研究（C）「プロジェクトを成功に導く見積りと遂行体制・契約方式の研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

1. K. Kobayashi and Y. Takano: A branch-and-cut algorithm for solving mixed-integer semidefinite optimization problems. Computational Optimization and Applications, 75 (2020), 493--513.
2. J. Iwanaga, N. Nishimura, N. Sukegawa, and Y. Takano: Improving collaborative filtering recommendations by estimating user preferences from clickstream data.

Electronic Commerce Research and Applications, 37 (2019), No. 100877.

3. T. Sato, Y. Takano, and T. Nakahara: Investigating consumers' store-choice behavior via hierarchical variable selection. *Advances in Data Analysis and Classification*, 13 (2019), 621--639.
4. M. Naganuma, Y. Takano, and R. Miyashiro: Feature subset selection for ordered logit model via tangent-plane-based approximation. *IEICE Transactions on Information and Systems*, E102-D (2019), 1046--1053.
5. N. Nishimura, N. Sukegawa, Y. Takano, and J. Iwanaga: Estimating product-choice probabilities from sequences of page views. *Proceedings of the 2019 International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications (NOLTA, 2019)*, 25--28.
6. S. Kamiya, R. Miyashiro, and Y. Takano: Feature subset selection for the multinomial logit model via mixed-integer optimization. *Proceedings of the 22nd International Conference on Artificial Intelligence and Statistics (AISTATS, 2019)*, 1254--1263.
7. T. Sato and Y. Takano: Smoothness-constrained model for nonparametric item response theory. *Information Science and Applied Mathematics*, 27 (2020), 1--20.
8. 高橋直希, 高野祐一, 吉瀬章子: ラストマイル・モビリティシェアリングシナリオモデルに基づく運用計画案の作成ー. *オペレーションズ・リサーチ：経営の科学*, 64 (2019), 453--459.

◆ 学会発表等：

1. Y. Takano and J. Gotoh: Dynamic portfolio selection with linear control policies for coherent risk minimization. *INFORMS 2019 Annual Meeting*, Washington State Convention Center, Seattle, U.S.A., October 20--23, 2019.
2. Y. Takano and R. Miyashiro: Best subset selection via cross-validation criterion. *International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis -- International Conference on Optimization Techniques and Applications (NACA-ICOTA2019)*, Future University Hakodate, Hakodate, Japan, August 26--31, 2019.
3. 高野祐一, 後藤順哉: コヒレントリスク指標に基づくポートフォリオの線形制御政策最適化. 日本オペレーションズ・リサーチ学会「評価の OR」研究部会, 筑波大学 東京キャンパス, 2019 年 7 月 27 日.

◆ その他：

1. 高野祐一, 河上佳太, 西村直樹, 白鳥友風, 工藤晃太, 松岡雄大, 最首大輝, 渡邊彰久: 令和元年度 データ解析コンペティション 敢闘賞. 日本経営工学会 経営情報部門, 2020 年 3 月 10 日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 1. 人工知能科学センター 構成員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 1. 社会工学類・社会工学専攻 広報委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員
 2. Scientific Committee & Local Organizing Committee, International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis -- International Conference on Optimization Techniques and Applications (NACA-ICOTA2019)

氏 名	フندوقク トゥアン	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率過程，計算機・通信・サービスシステムのモデル化と性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 応用確率論（春）
 - 数理モデル化実習（春）
 - 計算機科学（分担，秋）
 - 社会工学のための数学（分担，春）
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3 人
 - 社会工学専攻 4 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ※ 各種研究プロジェクト、競争的外部資金獲得状況（研究代表者・研究分担者を明記）、共同研究・受託研究（研究代表者・研究分担者を明記）を含む

2018 年 4 月～2021 年 3 月：研究課題番号：18K18006 学術振興会・若手研究，研究課題「処理能力可変型待ち行列システムの理論的深化と省エネデータセンターへの応用」代表

2019-04-01 - 2023-03-31 研究課題番号：15H02966 学術振興会 基盤研究(B)研究課題「複数車両・複数道路橋を対象とした移動センシング技術の基盤的研究」（代表：山本 亨輔）研究分担者

<編集学術誌特集号・編集国際会議の会議録>

Takahashi, Y., Yue, W. and Phung-Duc, T., Eds., Special Issue of Annals of Operations Research on Queueing Theory and Network Applications, Vol. 277, No. 2, 2019.

Phung-Duc, T, Kasahara, S. and Wittevrongel, S., Eds., Selected Papers of The 14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2019),

Ghent, Belgium, 27-28 August 2018, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 11688, 2019.

<査読付き学術論文誌に掲載論文>

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Delay Performance of Data-Center Queue with Setup Policy and Abandonment,” Published Online in Annals of Operations Research, 2019.

Dragieva, V. I. and Phung-Duc, T., “A Finite-Source M/G/1 Retrial Queue with Outgoing Calls,” Published Online in Annals of Operations Research, 2019.

Yajima, M. and Phung-Duc, T., “Analysis of a Variable Service Speed Single Server Queue with Batch Arrivals and General Setup Time,” Performance Evaluation, Vol. 138, Article no. 102082, 2020.

<査読付き国際会議論文>

Akutsu, K., Phung-Duc, T., “Analysis of Retrial Queues for Cognitive Wireless Networks with Sensing Time of Secondary Users,” In Proc. of QTNA2019: Lecture Notes in Computer Science, LNCS 11688, pp. 77-91, 2019. [DOI: 10.1007/978-3-030-27181-7_6]

Sakuma, Y., Boxma, O. and Phung-Duc, T., “A single server queue with workload-dependent service speed and vacations,” In Proc. of QTNA2019: Lecture Notes in Computer Science, LNCS 11688, pp. 112-127, 2019. Best Paper Award. [DOI: 10.1007/978-3-030-27181-7_8]

Hideyama, S., Phung-Duc, T. and Okada, Y., “Queueing Analysis of Home Delivery Services with Parcel Lockers,” In Proc. of QTNA2019: Lecture Notes in Computer Science, LNCS 11688, pp. 351-368, 2019. [DOI: 10.1007/978-3-030-27181-7_21]

Phung-Duc, T. (2019), “Batch Arrival Multiserver Queue with State-Dependent Setup for Energy-Saving Data Center,” to appear in Communications in Computer and Information Science.

Dragieva, V. and Phung-Duc, T., “On the Busy Period in a Finite-Source Retrial Queue

with Outgoing Calls,” Proceedings of International Conference on Information Technologies and Mathematical Modelling 2019, pp. 1-13, In: Dudin A., Nazarov A., Moiseev A. (eds) Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Applications. ITMM 2019. Communications in Computer and Information Science, vol. 1109. Springer, Cham. [DOI: 10.1007/978-3-030-33388-1_1]

Nazarov, A., Phung-Duc, T., Paul, S. and Lizura, O., “Single Server Queues with Batch Poisson Input and Multiple Types of Outgoing Calls,” Proceedings of International Conference on Information Technologies and Mathematical Modelling 2019, pp. 177-187, In: Dudin A., Nazarov A., Moiseev A. (eds) Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Applications. ITMM 2019. Communications in Computer and Information Science, vol. 1109. Springer, Cham. [DOI: 10.1007/978-3-030-33388-1_15]

Nazarov, A., Phung-Duc, T., Paul, S. and Lizura, O., “Asymptotic-Diffusion Analysis for Retrial Queue with Batch Poisson Input and Multiple Types of Outgoing Calls,” Vishnevskiy, V. M., Samouylov, K. E., Kozyrev, D. V. (Eds.), Distributed Computer and Communication Networks, DCCN 2019. Lecture Notes in Computer Science, LNCS 11965, pp. 207-222, Springer, Cham. [DOI: 10.1007/978-3-030-36614-8_16]

Dragieva, V. I. and Phung-Duc, T. (2019), “Queueing Analysis of Cognitive Radio Networks with Finite Number of Secondary Users,” Accepted in ASMTA2019 and to appear in Lecture Notes in Computer Science.

Nakamura, A., Phung-Duc, T. and Ando, H. (2019), “Queueing Analysis for a Mixed Model of Carsharing and Ridesharing,” Accepted in ASMTA2019 and to appear in Lecture Notes in Computer Science.

Phung-Duc, T. and Fiems, D. (2019), “Exact Performance Analysis of Retrial Queues with Collisions,” Accepted in ASMTA2019 and to appear in Lecture Notes in Computer Science.

Makino, Y. and Phung-Duc, T., “Queueing Analysis of Taxi Stand Considering Boarding Time,” Proceedings of The 2019 International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications (NOLTA2019), pp. 32-35, Kuala Lumpur, Malaysia, December 2-6, 2019.

◆ 学会発表等：

1. 日出山 慎人, Phung-Duc Tuan, 岡田 幸彦, 待ち行列理論を用いた宅配サービスシステムのモデル化と性能解析, 第 36 回 (2019 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp. 6-15, 神奈川工科大学 アクティブラーニング横浜, 2020 年 01 月 22-24 日.
2. 町田 由登, Phung-Duc Tuan, 待ち行列システムとしてのガソリンスタンドの解析と性能評価, 第 36 回 (2019 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp. 51-52, 神奈川工科大学 アクティブラーニング横浜, 2020 年 01 月 22-24 日.
3. 阿久津 康平, Phung-Duc Tuan, Lai Yuan-Cheng, Lin Ying-Dar, 待ち行列モデルによるモバイルエッジコンピューティングの性能評価, 第 36 回 (2019 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp. 88-97, 神奈川工科大学 アクティブラーニング横浜, 2020 年 01 月 22-24 日.
4. 中村 彩音, Phung-Duc Tuan, 安東 弘泰, 待ち行列理論を用いたカーシェアリングとライドシェアリングの混合モデル, 第 36 回 (2019 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp. 98-107, 神奈川工科大学 アクティブラーニング横浜, 2020 年 01 月 22-24 日.
5. 中村彩音, Phung-Duc Tuan, 安東弘泰, カーシェアリングとライドシェアリングの混合モデルに関する検討, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年度秋季研究発表会, ブストラクト集, pp. 268-269, 東広島芸術文化ホールくらら, 2019 年 09 月 12-13 日.

◆ その他

受賞：

2019 年 08 月：Best Paper Award, 14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2019)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院入試委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 各種活動
学術論文誌の編集員

Editor of KSII Transactions on Internet and Information Systems (Korean Society for Internet Information) from January 2013 ~ present

Editor of Journal of Platform Technology (ICT Platform Society) from November 2013 ~ present

Editorial Board of International Journal of Applied & Experimental Mathematics (IJAEM) from December 2015 ~ present

Guest Editor of Special Issue of Annals of Operations Research on Queueing Theory and Network Applications, from October 2016 ~ present

Associate Editor of Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017 ~ present

Editorial Board of The Open Statistics and Probability Journal from December 2017 ~ present

Area Editor for EAI Transactions on Scalable Information Systems from May 2018

Associate Editor for Journal of the Operations Research Society of Japan from June 2019

国際会議の委員長等

Co-Chair of Technical Program Committee the 14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2019), Ghent, Belgium, August 27-29, 2019.

Co-Chair of Technical Program Committee of 16th European Performance Engineering Workshop (EPEW2019), Milan (Italy), November 28-29 2019.

General Co-Chair of 13th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools (ValueTools2020), May 18-20, 2020, Tsukuba, Japan.

国際会議の委員等

International Technical Programme Committee of the International Conference on Information Technologies and Mathematical Modelling (ITMM), 2019, Saratov, Russia, June 2019.

Technical Programme Committee of the 10th Symposium on Information and Communication Technology, 2019, Hanoi, Vietnam, December 4-6 2019. [Website]

Technical Programme Committee of the Tenth International Conference on Performance, Safety and Robustness in Complex Systems and Applications PESARO 2020, February 23, 2020 to February 27, 2020 - Lisbon, Portugal.

Technical Programme Committee of The 25th International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications ASMTA-2019, October 21-25, 2019, Moscow, Russia.

Technical Programme Committee of The MONAMI 2020 - 10th EAI International Conference on Mobile Networks and Management, August 25-27, 2020, Chiba, Japan.

国内学会・研究集会の委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会・待ち行列研究部会幹事
第 36 回（2019 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

社会貢献

特になし

氏 名	八森 正泰	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 線形代数2／線形代数3／離散数学／情報技術実験／囲碁で培う思考力
- ◆ 大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人
社会工学専攻（前期課程）2人
社会工学専攻（後期課程）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究（B）「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」（分担、代表：繁野麻衣子）
基盤研究（B）「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」（分担、代表：吉瀬章子）
- ◆ 著書・論文等：
『数学セミナー』2019年4月号～2020年3月号「組合せ数学の雑記帳」連載

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 カリキュラム委員
大学院 論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Graphs and Combinatorics 誌 Managing Editor
日本数学会応用数学分科会委員

応用数学合同研究集会（日本数学会応用数学分科会主催，応用数理学会，龍谷大学理工学部協賛）世話人

組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事

国際会議 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2018) 実施委員

JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏 名	原田 信行	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 統計学／金融論
 - 大学院 企業評価論

- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 5人
 - 社会工学専攻 1人

2. 研究

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 カリキュラム委員会委員
 - 社会工学類 卒業生連絡委員会委員

氏 名	藤井さやか	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任 環境科学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市計画、住環境整備、まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 総合科目都市・地域・環境を語るⅠ・Ⅲ／土地利用計画／住環境計画実習／
現代まちづくりの理論と実践／都市計画事例講義／都市計画インターンシップ／
設計演習Ⅰ・Ⅱ

大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学
ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ（国際交流ワークショップA・B／
まちづくりワークショップファシリテーター研修）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／ 社会工学専攻 11人／ ARE（学類2年生） 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成31年度科学研究費・基盤研究（B）・「社会的包摂プログラムを組み込んだ外国人集住地区再生手法の実態と日本への適用」研究代表者
- 平成31年度科学研究費・挑戦的研究（萌芽）「高齢者・障がい者・子どもが互いに支え合う複合地域拠点モデルの提案」研究代表者
- 平成31年度科学研究費・基盤研究（C）・「景観・市街地環境の保全・形成手法としての絶対高さ制限の評価に関する研究」研究分担者（研究代表者・大澤昭彦）
- 2019年度共同研究 独立行政法人都市再生機構「震災復興のための地域資源利活用方策に関する研究」研究代表者
- 2019年共同研究・英国 ESRC UK-Japan SSH Connections Call, 「Challenges and Solutions for Ageing High-Rise Neighbourhoods in Japan and the UK」研究分担者（研究代表者・Brian Webb）
- 2019年度助成研究・（公財）建築技術教育普及センター調査研究助成, 「高齢化する経年郊外戸建て住宅地における建築協定の発展的解消と運営体制再構築に関する研究」研究代表者
- 2019年度共同研究・トヨタ自動車, 「歩行者専用道を含むつくば駅周辺モビリティ・

土地利用調査」研究分担者（研究代表者・大澤昭彦）

- 2019 年度奨学寄附金・アーバンデザインセンター高島平（UDCTak）,「大規模団地内の屋外空間の利用実態研究」研究代表者
- 2019 年度受託研究 結城市「結城市伝統的建造物群保存対策調査研究」研究分担者（研究代表者 藤川昌樹）
- 2019 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」研究代表者

◆ 著書・論文等：

- 藤井さやか： 7 章 カナダ・トロントー多様性とイノベーションを生むスマートシティ開発, 谷口守編著『世界のコンパクトシティ 都市を賢く縮退するしくみと効果』(251p), pp.184-215, 学芸出版社, 2019-12.
- 島田由美子, 藤井さやか: 車依存地域における送迎活動を通じた祖父母による子育て支援に関する研究:茨城県下妻市を事例として, 都市計画論文集, No.54-3, pp.885-892, 2019.
- 板橋奈央, 藤井さやか: 地方都市における市民提案型まちづくり活動助成制度の実態と課題, 都市計画論文集, No.54-3, pp.1305-1312, 2019.

◆ 学会発表等：

- Sayaka FUJII: Reshaping a Greying Suburban Housing Estate in the Tokyo Metropolitan Region, The 2019 Annual Conference of the German Association for Social Science Research on Japan (VSJF), 2019.
- Shuang WANG, Sayaka FUJII: Future of the Public Housing Densely Inhabited by Foreigners in Japan, The 2019 Annual Conference of the German Association for Social Science Research on Japan (VSJF), 2019.
- Shuang WANG, Sayaka FUJII: A Study on the living supports and communities of the Public Housing Densely Inhabited by Foreigners in Japan, Annual Meeting Program of Association of American Geographers (AAG), 2019.
- O'Neil MILLER, Sayaka FUJII: Management and Spatial Planning of Street Vendors: Improving street market space in Downtown Kingston, Jamaica, Annual Meeting Program of Association of American Geographers (AAG), 2019.

◆ その他：

- 藤井さやか: 4 章 3 節 (pp.52-55)・8 章 (pp.169-184)・9 章 5 節 (pp.199-202), 結城市・結城市教育委員会「結城の町並み:伝統的建造物群保存対策調査」(206p), 2020.
- 藤井さやか: 団地内屋外空間プロジェクト, UDCTak2019 年度年次報告, pp.11-15, 2020.
- 大澤義明, 藤井さやか, 雨宮護, 山本幸子: 都市をフィールドとした多世代, 多文化, 交流の拠点創出, 科学研究費基盤研究 (A)「地域資源を基盤とする創造的復興とレジ

リエンス力強化に関する実践研究」報告書（87p）, pp.67-78, 2019.

- 上田東一, 関口芳史, 斉藤猛, 十屋幸平, 藤井さやか: 市長座談会 オリパラ・ホストタウン市区長大いに語る, 市政, No.69-1, pp.12-17, 2020-01.
- 小泉秀樹, 藤井さやか: 都市計画制度を構想する : 10 年後のレビュー (特集 都市計画法 50 年・100 年記念特集号)(都市計画法改正の四半世紀を振り返る), 都市計画, No.68-3, pp.80-83, 2019-05.
- 川手昭二, 藤井さやか: ニュータウン開発の光と影 (特集 都市計画法 50 年・100 年記念特集号)(新都市計画法の半世紀を検証する), 都市計画, No.68-3, pp.50-55, 2019-05
- 大村謙二郎, 藤井さやか: 日独比較からみた現代都市計画の光と影 (特集 都市計画法 50 年・100 年記念特集号)(新都市計画法の半世紀を検証する), 都市計画, No.68-3, pp.56-61, 2019-05.
- 高野律雄, 三浦基裕, 菅良二, 宮本和宏, 藤井さやか: 市長座談会 身近な移動手段『自転車』をまちづくりに生かす, 市政, No.68-5, pp.6-11, 2019-05.
- 講演, 「移民集住団地の再生事業を通じた社会的包摂の実現 カナダ・トロント市リージェント・パーク団地の事例から」, 立正大学「犯罪心理学」, 2019 年 10 月 21 日, 立正大学 5 号館 3 階 531 教室.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 欧州地域アドバイザーボード構成員 2019 年～現在
 - 研究科企画室室員
 - ボーフム市・つくば市連携協定支援
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 専攻 : カリキュラム委員会委員、予算委員会委員
 - 学類 : 3 年生担任 / 予算委員会委員 / 建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 :
 - 日本不動産学会事業企画委員会 委員
 - 日本都市計画学会 都市計画法 50 年・100 年企画特別委員会 委員
 - 日本建築学会住宅地計画小委員会委員
- ◆ 学術指導・講師等 :
 - 話題提供, 『世界のコンパクトシティ』刊行記念トークイベント, 2019 年 12 月 16 日, 二子玉川蔦谷家電 BOOK.
 - 講演・コーディネーター, 柏ビレジまちづくり説明会, 2019 年 12 月 8 日及び 9 日, 柏

ビレジ自治会館.

- 講演・コーディネーター, 柏ビレジまちづくり勉強会, 2019 年 11 月 17 日及び 18 日, 柏ビレジ自治会館.
- 講演・パネリスト, 「景観まちづくりを通じて地域コミュニティをはぐくむ」, 北斎通りまちづくりの会・シンポジウム「景観まちづくりから地域コミュニティを考える」, 2019 年 11 月 30 日, YKK60 ビル.
- 講演, 「今後のつくば中心市街地のまちづくりについて」, つくば市議会つくば中心市街地まちづくり調査特別委員会, 2019 年 10 月 11 日, つくば市役所.
- 講演, 「今後のつくば中心市街地のまちづくりについて」, つくば市議会つくば中心市街地まちづくり調査特別委員会, 2019 年 8 月 30 日, つくば市役所.
- パネリスト, 墨田区都市計画マスタープラン改訂記念シンポジウム『『すみだらしさ』について考える～地区まちづくり団体の活動の現状から～」, 2019 年 9 月 8 日, すみだリバーサイドホール.
- 講演, 「今後のつくば中心市街地のまちづくりについて」, つくば市議会つくば中心市街地まちづくり調査特別委員会, 2019 年 7 月 29 日, つくば市役所.

◆ 高大連携活動:

- なし

◆ 学外委員:

- 内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員
- 茨城県都市計画審議会委員
- 茨城県リサイクル認定製品審査会委員
- 千葉県柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
- 埼玉県景観審議会委員
- 埼玉県大規模小売店舗審議会委員
- 長野県都市計画審議会委員
- 板橋区都市計画審議会委員
- 板橋区老朽建築物等対策協議会副会長
- 板橋区都市づくり推進方策にかかる専門家委員会委員
- 墨田区都市計画審議会委員
- 墨田区建築審査会委員
- 墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員
- つくば市公有地利活用方策検討会常任委員
- つくば市中心市街地エリアマネジメント検討委員会委員
- つくば市図書館懇話会委員
- つくば市大規模事業評価委員会委員
- つくば市エリアマネジメント検討業務委託プロポーザル審査委員

- つくば市中心市街地公有地等活用基本方針検討業務委託プロポーザル審査委員
- 石岡市景観調査委員会委員
- 下妻市庁舎建設検討市民会議副委員長
- 結城市伝統的建造物群保存対策調査委員会委員
- かすみがうら市空家等対策協議会委員
- 鹿嶋市共創のまちづくり委員会委員長
- 市川市都市計画審議会委員
- 八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
- 国土交通省総プロ「成熟社会に対応した郊外住宅市街地の再生技術の開発」技術開発検討会委員
- 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 公益社団法人 UWC 日本協会派遣奨学生選考委員
- アーバンデザインセンター高島平 専門アドバイザー

氏 名	松原 康介	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	国際総合学類 社会工学類（兼担）		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/
大学院：都市形成史/
- ◆ 指導学生数：
国際総合学類 12/社会工学類 0/社会工学学位 P（前期）12/社会工学学位 P（後期）3

2. 研究

- ◆ 著書・論文等：
松原康介「ダマスカス 1968 年計画におけるヘレニズム基盤の再構築事業」都市計画論文集, 54-3, pp.630-637, 2019-10.
松原康介「戦後仏語圏における「最大多数のための住まい」から「進化型住宅」への展開 -ATBAT（建造者アトリエ）の国際・地域交流活動の歴史的経緯に関する研究 その 2-」日本建築学会計画系論文集, 84-760, pp.1473-1483, 2019-06.
- ◆ その他：
松原康介「オールド・ダマスカスの重層的空間と観光ルート」『都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 研究成果報告 2019 年度』, pp.237-252, 2020-03

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
国際総合学類 入試実施委員長
地中海・北アフリカ研究センター 兼任准教授
筑波大学北アフリカ研究センター 運営委員
筑波大学ボルドー事務所 運営委員
筑波大学タシケント事務所 運営委員
筑波大学アルマトイ事務所 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
専攻運営委員会 運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Field Editor (Urban Planning)
日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第5部会（都市計画）委員
日本都市計画学会 国際委員
日仏東洋学会 広報担当幹事

氏 名	山本 幸子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任、社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	ストック活用計画，住宅計画，地域計画		

1) 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 設計演習Ⅰ／住環境計画実習／設計演習Ⅱ／住環境計画概論／都市計画入門／
都市・地域・環境を探究Ⅲ（総合科目）

大学院：住環境計画論（環境科学専攻）

社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ／
社会工学ファシリテーター育成プレプログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

社会工学専攻 2人

研究生 1人

2) 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 基盤研究 C：「地域特性に対応した包括的移住支援システムのパターン展開」（代表）
- 2) 基盤研究 B：「中山間・島嶼地域における新たな運営主体による高齢者通所介護施設整備の展開可能性」（分担）
- 3) 2019年度石岡市受託研究：「石岡市看板建築及び里山景観等調査研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

- 1) 中園真人，神崎翔太郎，三島幸子，山本幸子，孔相権：学童保育施設における平日放課後の集団規模（24～28人）と使われ方の関係－農家の納屋を改修した2室3領域型児童クラブハウス「つばめの家」の事例研究－，日本建築学会計画系論文集，第767号，pp.23-32，2020.1
- 2) 山本幸子：農村地域の民泊の背景と動向，住宅，pp.29-34，2019.11
- 3) 中園真人，三島幸子，山本幸子，孔相権：周防大島町における自治体による小規模高齢者通所介護施設の整備効果－島嶼地域における高齢者通所介護施設の配置計画論－，

日本建築学会計画系論文集，第 764 号，pp.2065-2075，2019.10

- 4) 中園真人，三島幸子，山本幸子，孔相権：山口県萩圏域における高齢者通所介護施設の立地形態と利用特性－中山間地域における高齢者通所介護施設の配置計画論－，日本建築学会計画系論文集，第 762 号，pp.1681-1691，2019.8

◆ 学会発表等：

- 1) 三島幸子，尤琨琦，細田智久，山本幸子，中園真人：介護制度改正による高齢者福祉施設の整備運営体制と利用特性の経年変化：山口県阿武町を対象として，日本建築学会中国支部研究報告集，日本建築学会中国支部編 43，pp. 541-544，2020. 2. 29

◆ その他：

- 1) 2019 年度都市住宅学会賞，2019 年 11 月
- 2) いばらき古民家活用セミナー～古民家を活かし、古民家を楽しむ～，茨城県政策企画課地域振興課主催，古民家交流カフェコーディネーター（桜川市真壁伝承館），2019 年 11 月 30 日
- 3) 第 6 回里山資本主義フォーラム，里山資本主義フォーラム実行委員会主催，パネルディスカッションパネラー（つくば市筑波 937 旧小林邸）2019 年 11 月 24 日

4) 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 1) 筑波大学キャンパスマスタープラン検討 WG

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 1) 筑波大学社会工学類カリキュラム委員
- 2) 筑波大学社会工学専攻施設委員
- 3) 筑波大学社会工学類建築士受験資格運営委員会委員
- 4) 筑波大学社会工学類 1 年クラス担任
- 5) 教職実践演習担当教員

2) 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) 牛久市総合計画審議会審議会委員
- 2) 茨城県古民家活用合同研究会座長
- 3) 土浦市空家等対策協議会委員
- 4) つくば市空家等対策協議会委員
- 5) 利根町空家等対策協議会委員長

- 6) 石岡市都市計画審議会委員
- 7) 利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会委員
- 8) つくば市ホテル等建築審議会委員
- 9) 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議支援事業部会委員
- 10) 日本建築学会文化的生態的景観 WG
- 11) 日本建築学会農村計画本委員会委員

氏 名	和田健太郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通工学，土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：交通計画，都市計画実習，都市数理，線形代数 3

大学院：モビリティイノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：0 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費：

- 高速道路の単路部ボトルネック現象に対する交通流理論の構築と制御手法の開発，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) (研究代表)
- ポスト・ビッグデータ時代に向けた次世代交通システムの動学的マネジメント手法の構築，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A) (分担)
- 高頻度運行都市鉄道システムの統合解析モデルの構築，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (分担)
- 渋滞のない近未来型道路交通システム設計のための理論基盤構築，日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽) (分担)
- 大都市高速道路網における交通流変動特性の解明とミクロ・マクロ階層的制御法の開発，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (分担)
- 走行税課金による道路インフラ維持管理－E V化と車両認証のデジタル時代を迎えて－，日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究 (開拓) (分担)

その他：

- AI 計算リソースとしての実交通ダイナミクスの活用技術の開発，科学技術振興機構 (JST) 未来社会創造事業（探索型）(研究開発参加者)

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文：

- Koki Satsukawa, **Kentaro Wada** and Takamasa Iryo: Stochastic stability of dynamic user equilibrium in unidirectional networks: Weakly acyclic game approach, *Transportation Research Part B: Methodological*, Vol.125, pp.229–247, 2019.
- **Kentaro Wada**, Irene Martinez and Wen-Long Jin: Continuum car-following model of capacity drop at sag and tunnel bottlenecks, *Transportation Research Part C: Emerging Technologies*, Vol. 113, pp.260–276, 2020.

査読付国際会議録掲載論文：

- Koki Satsukawa, **Kentaro Wada** and Takamasa Iryo: Stochastic stability of dynamic user equilibrium in unidirectional networks: Weakly acyclic game approach, *Transportation Research Procedia: Journal of Transportation and Traffic Theory* 38, 401-420, 2019.
- **Kentaro Wada**, Irene Martinez and Wen-Long Jin: Continuum car-following model of capacity drop at sag and tunnel bottlenecks, *Transportation Research Procedia: Journal of Transportation and Traffic Theory* 38, 668-687, 2019.
- Jiahua Zhang and **Kentaro Wada**: Fundamental diagram of urban rail transit: An empirical investigation by Boston's subway data, *hEART 2019: 8th Symposium of the European Association for Research in Transportation*, Paper No.56, 2019.
- Tianyang Han, **Kentaro Wada** and Takashi Oguchi: Large-scale traffic data imputation using matrix completion on graphs, *The 22nd IEEE International Conference on Intelligent Transportation Systems*, pp.2252-2258, 2019.

◆ 学会発表等：

国内学会：

- **和田健太郎**：動的交通均衡配分理論の近年の進展，土木計画学研究・講演集，Vol.60, S2 (CD-ROM), 2019.（招待講演）
- 瀬尾 亨, **和田健太郎**, 福田大輔：鉄道 Fundamental Diagram に基づく高頻度運行鉄道システムの理論解析，土木計画学研究・講演集，Vol.60, 29-01 (CD-ROM), 2019.
- Jiahua Zhang, **Kentaro Wada** and Takashi Oguchi: An empirical study on fundamental diagram of urban rail transit: The case of Boston's subway data, 土木計画学研究・講演集，Vol.60, 29-03 (CD-ROM), 2019.
- 山田拓弥, **和田健太郎**, 大口敬:高速道路サグ部における渋滞時捌け交通量低下現象の実証分析，土木計画学研究・講演集，Vol.60, 15-10 (CD-ROM), 2019.
- **和田健太郎**, 邢健, 大口敬:連続体交通流理論に基づく高速道路サグ部における Capacity Drop 現象の実証分析，第 17 回 ITS シンポジウム，4-A-02 (CD-ROM), 2019

(生産研究, Vol.72, No.2, pp.165–171, 2020) .

ワークショップ等：

- 和田健太郎：連続体追従モデルに基づく高速道路サグ部における **Capacity Drop** 現象の実証分析，第 11 回高速道路の交通データ利用に関する勉強会，北海道建設会館，2019.
- 和田健太郎：工学における交通流研究—ボトルネックの振る舞いとその理論化，第五回茶話会（筑波大学大学院 数理物質科学研究科 数学専攻），筑波大学，2019.（依頼講演）

◆ その他：

- 論文奨励賞，土木学会，2019 年 5 月.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- キャンパス自転車問題に対する話題提供，令和元年学生生活関係教職員研修会，2019 年 9 月 13 日.

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 社会工学類 アドミッションセンター専門委員
- 社会工学専攻 入試実施委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種委員活動：

- 副会長，筑波山周辺渋滞対策協議会
- 委員，常総市 立地適正化計画検討委員会
- 委員，運輸総合研究所 鉄道事業の事業評価に係る勉強会
- 委員，高速道路調査会 高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究会
- Organizing Committee, The 10th Asian Conference in Regional Science
- 委員，交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会
- Editorial Board, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research

◆ その他：

- 米軍子弟高大連携プロジェクト(高大連携), Applied Mathematics Course 「Traffic Congestion Problems in Transportation Networks」, 2019 年 9 月 11 日.

氏 名	有馬 澄佳	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生産システム工学、地域活性化、技術経営とビジネスモデル・イノベーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 生産・品質管理／マネジメント実習／経営の科学 I
 - 大学院： 生産・品質管理／ビジネス戦略：理論と実践
- ◆ 指導学生数：30 名
 - 社会工学専攻 24 名（うち研究生 6 名）
 - 社会工学類 6 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費
 - 挑戦(萌芽)「地域協働情報プラットフォームの構築と評価、資源余剰の最適割付けと社会合理的分配」(代表：有馬澄佳、分担：繁野麻衣子教授)， 期間：2018 年 7 月～2021 年 3 月（2.5 年）， 金額：637 万円.
 - 受託研究
 - NEDO SIP 第 2 期 認知的インタラクション，「ワークライフバランスに貢献するサイバーフィジカル製造業」(代表：相山康道，分担者：有馬澄佳（筑波大学），参画組織：茨城県産業技術イノベーションセンター，茨城県内企業 2 社）， 期間：H30 年 1 月 14 日～R2 年 2 月 28 日（前期 1 年 3 カ月）， 金額：79,776,432 円（筑波大学：40,977,000 円，分担：11,042,000 円）.
 - JST 研究成果展開プログラム A-STEP（機能検証タイプ）「遠隔保守情報を統合活用した高速印刷機械の異常予測と保全計画最適化」，（研究代表者：有馬澄佳、企業：太洋電機産業(株)）， 期間：2018 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 30 日（1 年）， 金額：300 万円.
 - 産学共同研究等
 - 有馬澄佳，「歩留り因果解析の高精度化に向けたビッグデータに基づく高次元交

相互作用モデリング」, R1.11 月～R1.3 月, 495 万円, 国内大手企業.

- 有馬澄佳, 「リアルタイム監視・制御のための高速解析システムの研究」, 国内企業, H30 年度～H32 年度(2.5 年), 300 万円.
- 有馬澄佳, 「生産管理システムと超受注生産の研究」, H31/R1 年度, 100 万円/年, , 国内中小企業.
- 繁野麻衣子(代表)・有馬澄佳(分担)「中小企業における Big Data 解析の方法論の研究」, H31 年度, 直接費 250 万円(分担: 125 万円), 国内中小企業.

◆ 著書・論文等:

査読付学術雑誌掲載論文

1. T. Tsuji, S. Arima, "Automatic multi-class classification of tiny and faint printing defects based on semantic segmentation," Smart Innovation Systems and Technologies, Springer, pp.101-131, June-2020.
2. Z. Zhao, Y. Nishi, and S. Arima, "Interaction effects of environment and defect features to human cognition and skills in visual inspections," Smart Innovation Systems and Technologies, Springer, pp.431-448, June-2020.
3. S. ARIMA, H. BU, "Integrated 2D quality VM modeling Upscaling and evaluations of High-dimension Low-samples," Proceedings of AEC/APC Symposium Asia 2019, pp.1-4/TDA-O-23, Nov-2019.
4. S. ARIMA, H. BU, "Performance Evaluations of VM models of Multi-dimensional quality: Open data applications," Proceedings of AEC/APC Symposium Asia 2019, pp.1-4/TDA-P-24, Nov-2019.
5. S.ARIMA, H. BU, Y. ONUMA, K. HANDA, T. NAGATA, "Feature Extractions from a High-dimension Low-samples Data for Multi-dimension Virtual Metrology," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2019 (Joint symposium e-MDC and ISSM2019), pp.1-4, Sep-2019(in Shinchu, Taiwan). DOI: 10.23919/eMDC/ISSM48219.2019.9052136
6. M. TANAKA, K. NISHIZAWA, T. OHNO, Y. OGAWA, S. ARIMA, "Applications of Hybrid flowshop schedulings under dynamic constraints of queue time and capacities," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2019 (Joint symposium e-MDC and ISSM2019), pp.1-4, Sep-2019 (in Shinchu, Taiwan). DOI: 10.23919/eMDC/ISSM48219.2019.9052109
7. Y. Kotsuka, R. Murakami, S. ARIMA, "Development and Evaluation of Chat-bot Systems :The applications of the citizen service procedure," Proceedings of IIAI 8th International Congress on Advanced Applied Informatics (AAI2019), pp.1-6 (Full paper),

July-2019. DOI:10.1109/IIAI-AAI.2019.00065

◆ 学会発表等：

1. T. Tsuji, S. Arima, "Automatic multi-class classification of tiny printing defects based on semantic segmentation," Proceedings of the International Conference on Pattern Recognition Applications and Methods 2020, pp.1-10, (Accepted, but canceled because of Covid-19)
2. S. ARIMA, H. BU, "Integrated 2D quality VM modeling Upscaling and evaluations of High-dimension Low-samples," Proceedings of AEC/APC Symposium Asia 2019, pp.1-4/TDA-O-23, Nov-2019.
3. S. ARIMA, H. BU, "Performance Evaluations of VM models of Multi-dimensional quality: Open data applications," Proceedings of AEC/APC Symposium Asia 2019, pp.1-4/TDA-P-24, Nov-2019.
4. S. ARIMA, H. BU, Y. ONUMA, K. HANDA, T. NAGATA, "Feature Extractions from a High-dimension Low-samples Data for Multi-Dimension Virtual Metrology," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2019 (Joint symposium e-MDC and ISSM2019), pp.1-4, Sep-2019(in Shinchu, Taiwan).
5. M. TANAKA, K. NISHIZAWA, T. OHNO, Y. OGAWA, S. ARIMA, "Applications of Hybrid flowshop schedulings under dynamic constraints of queue time and capacities," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2019 (Joint symposium e-MDC and ISSM2019), pp.1-4, Sep-2019 (in Shinchu, Taiwan).
6. Y. Kotsuka, R. Murakami, S. ARIMA, "Development and Evaluation of Chat-bot Systems :The applications of the citizen service procedure," IIAI 8th International Congress on Advanced Applied Informatics (AAI2019), pp.1-6 (Full paper), July-2019.

◆ その他：

- 【特許】特願 2020-038172号 「欠陥検出分類システム及び欠陥判定トレーニングシステム」(発明者：筑波大学 有馬澄佳, 辻拓幹, 大沼悠斗, 西雄介)(出願人/所有者：筑波大学)(出願：2020年3月5日)。
- 【研究会等】
 1. (Mar. 18th(Mon), 2019)
2018年度第3回つくば産学官交流イノベーションフォーラム
オープンセミナー『知的情報処理の最前線を学ぼう！』
基調講演「スパースモデリングとその発展」(AIST・赤穂昭太郎先生)ほか
 2. (Sep. 4-6, 2019)
台湾国立大学 IE 専攻との台日合同セミナー(有馬研)

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - シス情倫理委員会（H30 年度～）
 - スポーツデイ実行委員会（H30 年度～）
 - 留学生対応委員会（H30 年度～）
 - 学類新入生オリエンテーション委員（H30 年度 9 月～）
 - 3 年次クラス担任（R1 年度）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携活動： 夏季リケジョサイエンス合宿 サイエンス実験体験（2019 年 8 月 1 日）（午前・午後とも：AI 実験・女性研究者紹介，IoT・認知計測実験，他）
- ◆ 茨城県「中小企業 IoT 等自動化技術導入促進事業」専門家（H28 年度～）
- ◆ 茨城県「IoT 推進ラボ」メンバー（上記と合わせて）（H28 年度～）
- ◆ IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing プログラム委員
- ◆ AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長
- ◆ 論文査読
 - ジャーナル
 - ◇ IEEE: 4 件
 - ◇ International Journal of Production Research 3 件
 - 国際会議論文：
 - ◇ AEC/APC symposium Asia: 24 件

氏 名	近藤 文代	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ 解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 担当授業科目：専門英語、経営の科学、マーケティング、社会調査実習

大学院 担当授業科目：マーケティングサイエンス、ファイナンス：理論と実践（野村證券提供講座）

- ◆ 指導学生数：社会工学類 5 人／社会工学専攻（前期） 9 人／社会工学専攻（後期） 1 人
- ◆ 学生の受賞： 2020 年 3 月 中野 暁 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会工学専攻長表彰

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究（C）「階層ベイズによるマルチデバイス状況を考慮」（代表）
2. 科学研究費 基盤研究（A）「データ・理論・分析手法の統合によるマーケティングモデルの進化と理論構築」（分担）

- ◆ 著書・論文等：

1. 中野 暁, 近藤 文代 (2019), 消費者のオンライン購買に関する時系列変化とその要因——購買特性および EC 利用デバイスの観点——行動計量学, 46(1), pp.19-31.
2. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2019), International Perspective: case of Japan, (ed.) Tugrul U Daim in Managing Mobile Technologies, pp.153-185. World Scientific.
3. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2019), A Comparative Cross-temporal Study on the Acceptance of Multiple Mobile Entertainment Services among Young Japanese Users, International Journal of E-Services and Mobile Applications, 11(4), 56-66.
4. Kondo, F. N. (2019), The Impact of Mobile Information Services on the Quality of Life of Internet Users in Japan, Journal of Service and Knowledge Management, 2(2), 156-165.
5. Furuya, T., Kondo, Hiromi, and Kondo, Fumiyo N. (2019), Convolutional Neural

Networks on Time Series for Smartphone Application Activations Using Wavelet Transform, Proceedings of 2019 8th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), pp.521-527.

6. Wei, L. and Kondo, Fumiyo N. (2019), Exploring Important Drivers of Motivation for Completion of Massive Open Online Courses by Bayesian Hierarchical Logistic Regression Model, Proceedings of 2019 8th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), pp.521-527.

◆ 学会発表等： ※国内外学会発表などの実績

1. Kondo, Fumiyo N. (2019), Ticket Sales Forecast for Music Events by State Space Model and Neural Network Model (LSTM - RNN) at 2019 INFORMS Marketing Science Conference held at University of Roma, Italy, between June 20 - June 22, 2019.
2. Furuya, T., Kondo, Hiromi, and Kondo, Fumiyo N. (2019), Convolutional Neural Networks on Time Series for Smartphone Application Activations Using Wavelet Transform, at 2019 8th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI) held at Toyama Convention Center between July 7-12, 2019. Sep 11, 2019.
3. Wei, L. and Kondo, Fumiyo N. (2019), Exploring Important Drivers of Motivation for Completion of Massive Open Online Courses by Bayesian Hierarchical Logistic Regression Model, at 2019 8th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI) held at Toyama Convention Center between July 7-12, 2019. Sep 11, 2019.
4. 近藤文代, 高地哲史(2019), 個人差を考慮した階層ベイズモデルによるスマートフォンアプリ起動行動予測, 2019 年度統計関連学会連合大会, 9 月 12 日, 滋賀大学 彦根キャンパス.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停教員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：FD 委員

4. 学外の社会貢献

氏 名	阿武 秀和	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学, 経済学の数理(以上、学類)、ミクロ経済学, ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：学類 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「複数財割当問題の理論的研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Dual Organ Markets: Coexistence of Living and Deceased Donors, Discussion Paper Series, University of Tsukuba

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：施設委員、施設安全衛生管理・省エネルギー委員、研究室配属マッチング委員、2 年社会経済システム主専攻担任、社会工学学位プログラム入試予備監督員（2020/1/31）、センター試験予備監督員(2020/1/18, 19)

4. 学外の社会貢献

なし

氏 名	五十嵐 岳	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 計量経済学／計量分析システム演習／統計学
 - 大学院：
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類： 0 人
 - 社会工学専攻： 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究(B)「裾・境界バイアス問題のないノンパラメトリック直接型密度比推定量とその応用について」(代表).
- ◆ 著書・論文等：
 - ・Igarashi, Gaku “Nonparametric direct density ratio estimation using beta kernel” , *Statistics*, Vol. 54, Issue 2, pp. 257-280, March 2020.
 - ・Igarashi, Gaku and Kakizawa, Yoshihide “Multiplicative bias correction for asymmetric kernel density estimators revisited” , *Computational Statistics & Data Analysis*, Vol.141, pp. 40-61, January 2020.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 3 年クラス担任，社会工学類入試実施委員会.

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏 名	牛島 光一	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学（開発、教育、健康）		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：統計学 1、統計学 2、都市経済学、地域科学演習

大学院：公共政策論

◆ 指導学生数：

社会工学類：1 人

社会工学専攻：（実質指導）博士 2 名、修士 7 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究（B）「市場統合の経済効果とその経路依存性に関する研究－明治期の鉄道網建設を例として－」（代表）
2. 科学研究費 挑戦的研究（萌芽）「経済学の実証研究における衛星画像と機械学習の応用－アフリカの開発政策を事例に－」（代表）
3. 科学研究費 基盤研究（A）「子どもの人的資本に係る科学的根拠の創出と実装：官学協働による政策評価過程の開発」（分担者）
4. 村田学術振興財団研究助成「環境衛生リスク改善の経済的価値」（代表）

◆ 著書・論文等：

〔査読有り論文〕

1. Evaluating Remedial Education in Elementary Schools: Administrative Data from a Municipality in Japan, Japan and the World Economy, 50:36-46, 2019. (with S. Bessho, H. Noguchi, A. Kawamura, R. Tanaka)

〔その他の論文〕

1. 自然災害による就業機会の減少と人的資本投資－東日本大震災の事例－『フィナンシャルレビュー』、141 号、pp.65-85、2019.
2. 子どもについての行政データベースの構築，『フィナンシャルレビュー』、141 号、pp.106-119, 2019. (別所俊一郎，川村顕，野口晴子，田中隆一との共著)
3. 就学援助と学力の関連性について：足立区におけるパネルデータ分析結果から，『フ

ィナンシャルレビュー』, 141 号, pp.120-140, 2019. (別所俊一郎, 川村顕, 野口晴子, 田中隆一との共著)

4. 区立小学校での補習の効果：足立区のケース, 『フィナンシャルレビュー』, 141 号, pp.141-159, 2019. (別所俊一郎, 川村顕, 野口晴子, 田中隆一との共著)

◆ 学会発表等：

1. “The values of environmental health risks improvement: Evidence from the largest low emissions zone”, Urban Economics Workshop, 於 京都大学経済研究所, 2020 年 2 月 14 日.
2. 「近代日本における鉄道の建設が財の市場間の価格差をどの程度収束させたか」, 第 33 回応用地域学会研究発表大会, 於 佐賀大学, 2019 年 11 月 24 日. (発表者：金子侑樹 [M2])
3. 「自然災害による就業機会の減少と人的資本投資－東日本大震災の事例－」, フィナンシャルレビュー論文検討会議, 2019 年 6 月 14 日.

◆ その他：

[サークル顧問]

- FreeEducation (教育ボランティアサークル)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 入試実施委員
- 就職委員長
- 広報委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 守谷市行政改革推進委員
- 足立区との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト
- 筑西市との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト

氏 名	折原 正訓	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	企業金融，税制		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 計量分析システム演習／金融リスク管理論/経済学の実証
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「企業統治と企業価値：準自然実験アプローチを用いた実証研究」（代表）
全国銀行学術研究振興財団 学術研究助成「機関投資家は企業価値を向上させるか」（代表）
清明会 研究助成「企業統治と企業価値」（代表）
- ◆ 学会発表等：
Family Firms' Dividend Policy: Evidence from a Japanese Tax Reform, 一橋大学金融研究会

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
経済産業研究所（RIETI）「これからの法人に対する課税の方向性」プロジェクトメンバー
全国銀行協会 金融調査研究会 研究員
日本証券経済研究所 証券税制研究会 委員

氏 名	金澤 輝代士	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	金融データ解析、確率過程、経済物理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 データ解析（秋 AB）
- ◆ 指導学生数：
0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 東証のデータ解析（特に HFT の提供する流動性の研究）
 2. アクティブマター系におけるレヴィ・フライトの研究
 3. Hawkes 過程の解析手法の研究

【外部資金、学内の競争的資金】

A) 科研費 若手研究 B（研究代表者）
エージェントモデルに基づく外国為替市場の安定性解析

B) 海外共同研究促進のため短期渡航支援プログラム（学内プログラム）
金融市場のデータサイエンスにおける Hawkes 過程の数理の応用
- ◆ 著書・論文等：
 1. Loopy Lévy flights enhance tracer diffusion in active suspensions.
K. Kanazawa, T.G. Sano, A. Cairoli, A. Baule, Nature 579, 364–367 (2020)
 2. Non-universal power law distribution of intensities of the self-excited Hawkes process: a field-theoretical approach
K. Kanazawa and D. Sornette, arXiv: 2001.01195 (査読中)
 3. Field master equation theory of the self-excited Hawkes process
K. Kanazawa and D. Sornette, arXiv: 2001.01197 (査読中)
- ◆ 学会発表等：
 1. 金融市場の平均場確率モデルの解析解と数値解法
金澤輝代士、第 62 回自動制御連合講演会 2019 年 11 月 10 日

2. Statistical physics of a foreign exchange market: kinetic mean-field theory of a stochastic many-body trader model
K. Kanazawa, Statistical Physics of Complex Systems (Nordita, Stockholm, oral, May 2019)
3. Kinetic theory for Lévy flight in active bacterial suspensions
K. Kanazawa, Statistical Physics of Complex Systems (Nordita, Stockholm, poster, May 2019)

◆ その他：特になし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 1. 入試業務：8月期大学院入試 監督業務
 2. 入試業務：センター試験 監督補助業務
 3. 入試業務：1月大学院入試 監督業務

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. 論文委員（サービス工学担当）
2. 広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 1. Physical Review Letters, アメリカ物理学会（査読、1回）
 2. Journal of Statistical Physics, Springer-Nature（査読、1回）
 3. Physics Letters A, Elsevier（査読、1回）
 4. American Physical Society March Meeting 2020, Focus Session 運営
Kinetic Theory and Its Applications in the Physical, Biological and Social Sciences
(※COVID-19の影響で未開催)

氏 名	木下 陽平	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任） 社会工学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	宇宙測地学、地球物理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 微積分 2，都市環境評価論，都市計画マスタープラン実習

大学院： リスク工学専攻演習，レジリエント都市計画演習，リスク工学基礎，リスク工学専攻グループ演習

◆ 指導学生数： 0 名

社会工学類 0 名

リスク工学専攻 0 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

■ 筑波大学研究基盤支援プログラム (A タイプ)「ハイブリッド大気遅延補正による InSAR での微小地殻変動シグナル検出：2018 年房総半島沖スロースリップイベントを事例として」(代表)

■ トヨタ自動車-社会工学域共同研究フェーズ V 課題 「無人道路インフラモニタリングのための車載型合成開口レーダーの開発」(代表)

◆ 著書・論文等：

無し

◆ 学会発表等：

■ Youhei Kinoshita, Tadahiro Nimura, Ryoichi Furuta, Detecting surface displacement associated with the 2018 slow slip event around Boso peninsula by use of Sentinel-1 InSAR with atmospheric correction, JpGU 2019, 幕張メッセ, 千葉, 27/05/2019

■ 木下陽平, 二村忠宏, 古田竜一, InSAR で SSE シグナルは検出できるか? -2018 年房総半島沖 SSE を例として-, スロー地震学・若手異分野交流会, 東京大学地震研究所, 東京, 18/07/2019

■ Youhei Kinoshita, Tadahiro Nimura, Ryoichi Furuta, Detecting surface

displacement associated with the 2018 slow slip event around Boso peninsula by use of Sentinel-1 InSAR with atmospheric correction, SLOWEQ2019, Sakura hole, Tohoku University, 21/09/2019

■ 木下陽平, 二村忠宏, 古田竜一, 大気遅延補正を適用した Sentinel-1 InSAR による 2018 年房総半島沖 SSE に伴う地表面変位の検出, 日本測地学会第 132 回講演会, 富山国際会議場, 富山, 30/10/2019

■ Yohei Kinoshita, Tadahiro Nimura, Ryoichi Furuta, Detecting surface displacement associated with the 2018 slow slip event off Boso peninsula by use of Sentinel-1 InSAR with atmospheric correction, AGU fall meeting 2019, Moscone center, San Francisco, 12/12/2019

◆ その他:

■ 木下陽平, 誰もしていないことを楽しむ, シリーズ「若手のページ」, 水文・水資源学会誌, 2018, 31(1), 408.

■ 木下陽平, 合成開口レーダー研究の現状とリスク・レジリエンス社会, 筑波大学リスク工学専攻紀要「リスク工学研究」, 2020, vol. 16.

■ 渡部哲史, 小槻峻司, 峠嘉哉, 丸谷靖幸, 綿貫翔, 山田真史, 林義晃, 仲吉信人, 木下陽平, 木村匡臣, 田中智大, 橋本雅和, WACCA meeting 10「水文・水資源学 Beyond2030 ワークショップ」会議報告, 水文・水資源学会誌, 33(1), 2020.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

教育図書委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

社会工学類 広報委員会委員

リスク工学専攻 広報委員会委員, 総務委員会委員, 専攻演習担当

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

学術誌査読: Geophysical Journal International 2 件

International Journal of Remote Sensing 1 件

InSAR 地殻変動研究コミュニティ「PIXEL」 コアメンバー

日本地球惑星科学連合 「SAR」セッション 主コンビーナー

日本リモートセンシング学会 JpGU 小委員会 委員

氏 名	黒瀬 雄大	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻（社会工学学位プログラム） 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 データ解析／プログラミング入門／プログラミング実習／フレッシュマン・セミナー／学問への誘い

大学院 ファイナンス：理論と実践
- ◆ 指導学生数：

学類 1名 博士前期課程 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(A) 「経済・金融多変量データのベイズモデリングと政策・行動の確率的評価」（研究分担）
- ◆ 著書・論文等：

Yuta Kurose and Yasuhiro Omori (2020), “Multiple-block dynamic equicorrelations with realized measures, leverage and endogeneity,” *Econometrics and Statistics*, 13, 46--68.
- ◆ 学会発表等：

黒瀬雄大, “Stochastic volatility model with range-based correction and leverage,” 2019 年度統計関連学会連合大会, 滋賀大学.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 1 年次クラス担任

社会工学専攻 カリキュラム委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

学術誌査読

氏 名	佐野 幸恵	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス、ソーシャルメディア		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：数学リテラシー1、プログラミング入門、プログラミング実習

大学院：社会シミュレーション

◆ 指導学生数：合計 10 名

社会工学類 2 人／社会工学学位 P（前期）4 人

サービス工学学位 P（前期）3 人／研究生 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 若手研究（B）「想起効果を内在する集合的記憶モデルの開発」（代表）
2. 筑波大学 システム情報系 若手研究融合プロジェクト「乳幼児の活動量を測定するウェアラブル機器の開発」（代表）

◆ 著書・論文等：

1. Y. Sano, H. Takayasu, S. Havlin, and H. Takayasu,
“Identifying long-term periodic cycles and memories of collective emotion in online social media,” *PLoS ONE*, vol.14(3), article number e0213843 (2019).
2. 佐野 幸恵,
“連載:情報を計測し,法則化する～今に活かせる計量情報学の経験則「Zipf 則・Heaps 則とその周辺」”, 情報の科学と技術 70(2)巻 pp.87-89 (2020)

◆ 学会発表等：

1. 佐野 幸恵, 鳥居 寛之, 尾上 洋介, 宇野 賀津子,
“SNS における福島原発事故後の放射線情報拡散シミュレーション,” 日本物理学会 第 75 回年次大会, 現地大会中止, 3/16-19 (2020).
2. Y. Sano,
“Information spreading on social media: Network analysis and simulation,” MIT-Tsukuba Joint-Workshop on Data Systems Science towards Social and

- Business Innovations, Tokyo, Japan, Jan. 20 – Jan. 21 (2020). [invited, oral]
3. G. Watababe, H. Sayama, and Y. Sano,
“Collective attention decay with exogenous event,” International School and Conference on Network Science (NetSci-X 2020), Tokyo, Japan, Jan. 20 – Jan. 23 (2020). [poster]
 4. Y. Sano,
“Empirical Analysis of Academic Network based on Acknowledgment Statement,” International School and Conference on Network Science (NetSci-X 2020), Tokyo, Japan, Jan. 20 – Jan. 23 (2020). [poster]
 5. Y. Sano, H. Takayasu, S. Havlin, and H. Takayasu,
“Longitudinal analysis of collective emotion in online social media”, The Conference on Complex Systems 2019 (CCS 2019), Singapore, Sep. 30 – Oct. 4 (2019) [poster]
 6. 照沼 大樹, 佐野 幸恵,
“言語的特徴量による機械学習を用いたデマの判別,” 明治大学 MIMS 共同研究集会
「Data-driven Mathematical sciences:経済物理学とその周辺, 9/14, 15 (2019).
 7. 佐野 幸恵, 高安 秀樹, Shlomo Havlin, 高安 美佐子,
“ソーシャルメディアから抽出した感情の周期性と長期記憶,” 日本物理学会 2019
年秋季大会, 岐阜大学, 9/10-13 (2019).
 8. 岩永 健太郎, 佐野 幸恵,
“Web 使用統計量に基づくリサーチフロントの定量的評価”, WebDB Forum 2019 工
学院大学, 9/8, 9 (2019)
 9. Y. Sano,
“Periodic cycles and memories of collective emotion on the Web,” Roles of
Heterogeneity in Non-equilibrium collective dynamics (RHINO 2019), Pohang,
Korea, Jul. 15 – Jul. 17 (2019). [invited, oral]

◆ その他

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 附属図書館運営委員
 - ・ 筑波大学主催リケジョサイエンス合宿 講師（2019 年 7 月 31 日）

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 学類・大学院 FD 委員
 - ・ 情報学群・社会工学類 「プログラミング入門」WG 主査

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
 - ・ 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 委員
 - ・ 男女共同参画推進委員会 委員
- ◆ 男女共同参画学協会連絡会：
 - ・ 大規模アンケート英文抄訳 WG リーダー
- ◆ 茨城県
 - ・ 土浦市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 副委員長
 - ・ 大学等地域連携委員会 委員

氏 名	Tran Lam Anh Duong	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：国際金融論/マクロ経済学
 - 大学院前期課程：経済・政策分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費（若手研究）「グローバル・バリュー・チェーンの形成メカニズムに関する分析」（代表）
 - 公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「経済のグローバル化が市場の不完全性を通じて所得の不平等に与える影響の分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - Furusawa, T., Konishi H. and Tran L.A.D., International Trade and Income Inequality forthcoming in *Scandinavian Journal of Economics*
- ◆ 学会発表等：
 - “The Impact of Technology Level on Global Value Chain Formation,” The 72nd European Meeting of the Econometric Society, University of Manchester, UK, August 28, 2019, with Desatnicov, I.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学 修士課程公共政策プログラム（ベトナム）：授業（Macroeconomics for Public Policy）、修士論文指導 1 人、運営
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 広報・新入生オリエンテーション委員会 委員
 - 社会工学類 広報委員会 委員
 - 社会工学類 クラス担任（3 年生）

4. 学外の社会貢献

◆ 学会

- The Vietnam – Japan Science and Technology Symposium (May 2019), Vietnam-Japan University, Hanoi, Vietnam : Referee & Track Chair
- The 1st Vietnam Symposium on International Business (June 2019), Banking University of Ho Chi Minh city, HCMC, Vietnam : Scientific Committee

◆ ジャパンマテリアル国際奨学金財団（2019-現在）：選考委員

氏 名	三崎 広海	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 協力		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計学、計量経済学、計量ファイナンス、大規模データ解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 計量時系列分析

大学院 金融リスク解析／リスク工学専攻演習／リスク工学基礎
- ◆ 指導学生数：

リスク工学専攻 3人／社会工学専攻 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「気配価格を利用したボラティリティ予測モデルの補正とその応用」（代表）

公益財団法人野村財団・社会科学研究助成「ティックデータを利用した深層学習によるボラティリティ予測一時系列モデルとの融合として一」（代表）
- ◆ 著書・論文等：

[1] Misaki, H., “Comparing Robustness of Realized Measures under Round-off Errors, Price Adjustments and Serial Correlations: A Simulation Study,” *International Journal of Computational Systems Engineering*, forthcoming.
- ◆ 学会発表等：

[1] Misaki, H., “Practical Application of the SIML Estimation of Covariance, Correlation and Hedging Ratio with High-Frequency Financial Data,” Smart Innovation, Systems and Technologies 2019, St. Julians, Malta, June 2019.

[2] Misaki, H., “The SIML Estimation of Integrated Volatility and Covariance,” Ritsumeikan One Day Workshop on Probability and Statistics, Ritsumeikan University, October 2019.

[3] Misaki, H., “Financial Risk Management with High-Frequency Data,” International Symposium on Theories and Methodologies for Large Complex Data, Tsukuba, Japan, November 2019.

[4] 三崎広海, 「高頻度金融時系列データによるボラティリティ推定量の比較と資産運用へ

の応用」，2019 年度統計関連学会連合大会，滋賀大学，2019 年 9 月．

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 学生担当教員会議委員
システム情報工学研究科 FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻 広報委員／教育企画委員／就職委員／カリキュラム委員